

## 和仏法律学校講義録

赤司, 鷹一郎 / 栗津, 清亮 / 富谷, 銈太郎 / 下村, 宏 / 杉本, 貞治郎 / 矢作, 榮藏 / 加藤, 正治

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

2-21

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

41

(発行年 / Year)

1899-12-10

學報

和佛經濟學  
講義  
筆記

每月一回

第貳拾壹號

目次

財	政	學	自一八五頁	法	學	士	下	村	宏
海	商	法	自一八一頁	法	學	士	加	藤	正
手	形	法	自五三〇頁	法	學	博	士	富	谷
商	法	保	險	自一〇九頁	法	學	士	粟	津
商	法	會	社	自四三八頁	法	學	士	杉	本
經	濟	學	自五七四頁	法	學	士	矢	作	榮
商	法	商	行	為	自六三〇頁	法	學	士	赤
									鷹
									一郎

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

# 法學志林

第貳號 十二月五日發行

每月一回發行  
定價一冊金拾錢郵稅一冊金壹錢十冊前金壹圓郵  
稅不要  
校友生徒校外生ニ限リ  
特價一冊八錢郵稅壹錢十冊前金六拾錢郵稅不要

古實法學士、秋山法學士、寺尾法學博士ノ肖像

法學研究ニ付テ、法學士水町架波六●破産法ヲ論ス、法學博士梅謙次郎

勞役者ノ責任問題 續ニ法科大學々生五來欣造

寺院權限ノ權利ニ關スル判例、法學士城敷馬●八證ニ關スル大審院ノ最新聯合部判例、辯護士信岡

關西及九州紀行續 信岡雄四郎●高利借取締法、先登士

民法及破産法問題解答、法學博士梅謙次郎●擬判試驗問題及ヒ答案、藤戶靜夫

○平和會議成功ノ理由○無盡講世話人ノ訴訟權ニ關スル新判例○上訴ノ場合ニ於ケル訴ノ取下○  
○志避申請ノ流行及濫用○學者トシテノ判檢事○地上權假登記取消請求ト抗辯○確認訴訟ノ判例○  
○司法官ト行政官ノ犯罪○居留地家屋稅○高利貸取締法案提出○看護婦ト女房○法科大學生ノ落第

ト外山生ノ意見○議員收賄ニ關スル刑罰○百五十一回ノ拘留

○講師會○講師校友生徒有志秋季大懇親會○特別試驗及ヒ擬判試驗○圖書閱覽室資金寄附者氏名○判事檢事登用第一回試驗及第者○校友異動○校友死亡

發行所 東京市麴町區高士見町六丁目 司法省指定 和佛法律學校 (電話番町一七四)

債ハ戰時事變ニ際シ一時ニ總額ノ需要急迫ヲ告クルカ如キ例外ノ場合ヲ除ク  
ノ外ハ勉メテ避ク可キ手段タリ是レ一方ニハ一時ニ巨額ノ流通資本ヲ吸收シ  
テ金融市場ノ擾亂ヲ來ス可ク一方ニハ急促ノ需要ナキ資金ニ對シテ等シク無  
用ノ利子ヲ支出スルモノナレハナリ漸次ノ募集方法ニ於テモ猶ホ其募集回数  
ノ多寡ニ伴ヒ拂込高ニ大小ノ差異ヲ來ス可キコト固ヨリ言フ俟タス回数ヲ多  
クスルハ下級人民ノ貯蓄獎勵ノ一法タルハ高額遞減法ト同一ノ主旨ニ出ツル  
モ一方ニハ拂込ノ手續ヲ重キルノ不便アリ我邦ノ如キハ多ク二回乃至五回ヲ  
平均ト爲スモ佛蘭西ノ如キハ下級人民ノ貯蓄心厚ク政府亦此カ獎勵ニ留意ス  
ルヲ以テ通常募集ノ回数十回ニ亘ルヲ例ト爲シ普佛戰爭ノ際十二億圓ノ國債  
ヲ募集セシ場合ノ如キ拂込ノ度數ハ二十一回ノ多キニ上レリ蓋シ募集ノ回数  
ハ市場ノ狀況募集額國債ノ性質等各種ノ點ニ由リ多少ノ斟酌ヲ加フ可キモ成  
ル可ク其回数ヲ多クシテ下級人民ヲシテ此カ募集ニ應スルノ使ヲ開クハ社會  
政策上喜フ可キコトナリトス

財政學



法學士粟津清亮著

# 保險論集

頁數八百餘菊判美本

正價 金貳圓五拾錢

十一月二十五日發刊

本書ハ著者カ保險政策研究ノ爲大學院在學中(自明治廿七年五ヶ年間)ニ起  
草シタル論說事項ヲ蒐輯編纂シタル大冊ニシテ保險ノ經濟的數理的法律的  
等ノ諸方面ニ涉リ理論アリ實際アリ批評アリ沿革アリ是等カ皆斯學ノ木鐸  
トナリ斯業ノ指針ト爲レルハ世人ノ業既ニ知ル所苟モ保險事業ニ從事スル  
者ハ固ヨリ保險ニ關スル諸種ノ學科ヲ研究セントスル人ハ必ラス一本ヲ藏  
セサルヘカラサルナリ

東京神田區錦町壹丁目壹番地

八尾書店

全 京橋區銀座四丁目壹番地

八尾商店

全 京橋區山城町大番地

保險學會事務所

## 發賣所

ニ一致スル所ナリ保證拂トハ國債ノ申込ヲ爲ス時同時ニ申込ノ保證トシテ其申込高ノ一部ヲ拂込マシムルノ法ニシテ申込後市場ノ狀況應募者自體ノ都合上之カ拂込ヲ怠リ政府當初ノ目的ヲ誤リ再ヒ不足ノ部分ニ達シテ募集ノ手續ヲ重スルノ弊害ヲ避クルカ爲メニシテ各國保證拂ノ額ハ其申込額ノ一割ヲ以テ例ト爲セリ普佛戰爭ノ際ハ戰時ニ際シ此カ拂込ノ確實ヲ期スルコト必要ナルニ由リ保證拂ハ二割ニ達セリ保證拂及ヒ其跡金ノ拂込高ハ最後ノ拂込期限ニ於テ拂込ヲ爲サ、ルトキハ之ニ若干ノ期間ノ猶豫ヲ與ヘ其期間中ニ拂込ヲ爲ストキハ之ニ其遲延利子ヲ附スルコトヲ條件トシ此期限ニ至リテ猶ホ拂込ヲ爲サ、ルトキハ之ヲ沒收スルヲ例トス(整理公債條例第八條參照是レ一般株式會社ノ株式申込ニ於テモ等シク見ル所ニシテ數次ノ拂込ニ對シテ當然伴フ可キ制度ナリトス)

## 第六章 國債ノ管理

### 緒論

國債ノ管理ナル意義ハ之ヲ廣義ニ用フルトキハ凡ソ三部ニ分ツコトヲ得可キ

國債ノ募集國債ノ變更及ヒ國債ノ償還是ナリ之ヲ狹義ニ用フルトキハ其一部タル國債ノ變更ノミヲ意味スルモノニシテ余ハ茲ニ國債ノ管理ナル意義ヲ狹義ニ用ヒ國債ノ募集及ヒ國債ノ償還ニ至リテハ之ヲ前章及ヒ次章ニ於テ講述スルコト、爲セリ

國債ニ關スル政府財政上ノ行動ハ最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ利益ヲ得ルヲ目的ト爲ス可キハ言ヲ俟タサル所ナリ而シテ此目的ヲ達スルカ爲メ國債ノ募集及ヒ償還以外ニ新ニ國債變更ノ手段ヲ用フルニ至リシハ近時國債ノ發達ニ伴フ特徴ノ一ニ算定セシムルハアラサ蓋シ茲ニ國債ノ變更ト稱スルハ在來ノ契約ノ形式ノ變更ヲ指スモノニシテ元金利子ノ歩合償還及ヒ支拂期限據置期間擔保籤札等凡テ國債ノ體様ノ一ヲ變更スルモ又國債ノ變更ニ外ナラサルモ所謂最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ利益ヲ得可キ財政上合法ノ手段ニ至リテハ常ニ利子ノ歩合ノ變更ニ在リ故ニ學者或ハ國債ノ變更ト稱セシメテ國債ノ利子又ハ國債利子ノ管理ト稱スルコトアリ

「ヘンリー・シ、アダムス氏ノ如キモ亦利子ノ低減ヲ主トシ國債ノ元利償還ハ

絶エス國民ニ負擔ヲ貽スモノナルヲ以テ財政家ハ正當ノ手段ニ由リテ此負擔ノ輕減ヲ計ル可キモノナリトシ此目的ニ由リ政府カ國債ヲ管理スルニハ左ノ三箇ノ理想ニ據ル可キモノト爲セリ

一 平時國債ヲ利用スル方法アルトキハ國債ノ弊害ヲ除去シ此カ効驗ヲ大ニスルコトヲ得可シ

即チ國債ノ利用ト稱ス可キモノニシテ氏ハ主トシテ國債ノ記名無記名國債ヲ以テ銀行ノ紙幣發行ノ準備ト爲スコト商業上ノ擔保品トシテ利用スルコト利子ノ期限前拂臨時ノ國債買上等ニ因ル金融市場ノ救済等ヲ論述セリ

二 國債ノ利率ヲ低減スルコトヲ得ハ國債ノ負擔ヲ減少スルコトヲ得可シ

即チ氏カ國債ノ借換ト稱スルモノニシテ本章ニ於テ主トシテ講述スルモノナリ  
三 國債ノ負擔ハ借入レタル元金ノ償還ニ因リテ之ヲ除去スルコトヲ

得可シ

即チ氏カ國債ノ償還ト稱スルモノニシテ次章ニ於テ講述ス可キモノナリ  
國債ノ利子ノ變更ハ之ヲ大別シテ國債ノ借換及ヒ國債ノ利子引下ノ二者ト爲スコトヲ得可シ而シテ其ニ合法ナル場合ト違法ノ場合トアリ但國債ノ利子ノ引下ハ國家財政ノ非況ニ陥リシ場合ノ窮策トシテ之ヲ例外ト爲シ國債ノ借換ヲ以テ國債管理ト殆ト同意義ニ用フルハ多クノ著書ニ於テ見ル所ナリ余ハ本章ニ於テハ第一節ニ於テ國債ノ借換第二節ニ於テ國債ノ利子引下ノ二者ヲ論シ便宜ノ爲メ第三節ニ於テ國債ヲ課稅物件ト爲スノ可否ニ付キ一言スル所アル可シ

第一節 國債ノ借換

國債ノ借換ハ又廣ク既ニ現存セル國債ノ形式ヲ變更スル財政上ノ處分ヲ意味スルコトアリ然レトモ茲ニ所謂國債ノ借換トハ高利ノ國債ヲ新ニ低利ノ國債ト交換スル財政上ノ處分ヲ謂フモノニシテ之ヲ借換ノ強制ニ依ルト隨意ニ依

ルトニ由リ強制的國債ノ借換ト隨意的國債ノ借換ト二種ニ分ツコトヲ得可ク  
 又國債ノ借換ヲ爲シ得キモノナルヤ否ヤニ由リ合法的國債ノ借換ト違法的  
 國債ノ借換ト二者ニ分ツコトヲ得可シ

第一 合法的國債ノ借換トハ借換ヲ要スル國債ノ契約カ借換ヲ爲スモ抵觸ヲ  
 生スルコト無キ場合ヲ指スモノニシテ反面ヨリ觀察スレハ有期隨時支拂國債  
 及ヒ永遠國債ノ据置期限ヲ經過セル場合ノ如ク政府カ之カ償還ノ期限ニ對シ  
 契約上毫モ制限ヲ受ケサル場合ノ借換ヲ云フ

第二 違法的國債ノ借換トハ借換ヲ要スル國債ノ契約カ借換ト相抵觸スル場  
 合ヲ指スモノニシテ反面ヨリ觀察スレハ有期隨時支拂國債及ヒ永遠國債ノ据  
 置期限内又ハ其他ノ國債ノ如ク政府カ之カ償還ノ期限ニ對シ契約上既ニ制限  
 ヲ受ケタル國債ノ借換ヲ云フ

第三 強制的國債ノ借換トハ其借換ヲ要スル國債ノ合法ナルト違法ナルトヲ  
 問ハス此カ債權者ニ元金ノ償還ヲ爲スコトナク凡テ新國債ノ交換ヲ強制スル  
 借換ヲ云フ

第四 強制的國債ノ借換トハ其借換ヲ要スル國債ノ合法ナルト違法ナルトヲ  
 問ハス此カ債權者ニ元金ノ償還ト新國債ノ交付ト對シ選擇ノ自由ヲ與ヘタル  
 借換ヲ云フ

上述スル所ニ據リ國債ノ借換ニシテ合法ニシテ且隨意ナルトキハ皆ニ債權者  
 ヲ害スルコトナクシテ人民ノ負擔ヲ輕減スルコトヲ得可ク財政ノ整理上重要  
 缺ク可ラサル行動ニ屬スルモノタリ然レトモ國債ノ借換ニ對シテハ國家經濟  
 上弊害アリト論スル者アリ其言ニ依レハ國債ノ利子低下スルトキハ之ト共ニ  
 一般營業上ノ利潤ヲ減シ一般産業ノ不振ヲ來ス可シト云フニ在リ此論者ハ同  
 一ノ根據ニ由リ營業上ノ利潤減スルトキハ物價ノ下落ヲ來シ社會全般ニ利益  
 アリト反論スル者ト俱ニ論理上前提ニ於テ誤レルモノナリ如何トナレハ營業  
 ノ利潤ノ高低ハ國債利子ノ上下ニ因リテ之ヲ左右シ得キモノニ非サレハナ  
 リ

蓋シ國債ナルモノハ必シモ同一ノ狀況ヲ有スル市場ニ於テ募集シ得キモノノ  
 ニ非ス政府ハ同一ノ信用ヲ有スルモ金融市場ノ狀勢ニ左右セラレテ常ト爲



殊ニ戰時事變等ニ際シテ然リトス所ノ如ク事情ヲ異ニシタル場合ニ募集シタル國債換言スレハ利子ノ歩合異ナル各種ノ國債ノ存在ハ國債ノ價格ノ變動ヲ來スノミナラス同一ノ政府ノ募集ニ係ル國債ニシテ或種類ノ者ハ高ク或種類ノ者ハ低ク常ニ相統一スル所ナクシテ動搖常ナキハ政府ノ信用上財政ノ整理上不可ナルコト言フ俟タズ隨テ國債ノ借換ノ利益ハ單ニ歳出ノ減少人民負擔ノ輕減ノミニ止マルモノニ非ス

國債ノ條件ハ(第一)合法ナルコト即チ借換ヲ爲ス權利ヲ有スルコト(第二)債權者ニ對シ元金ノ償還請求權ヲ認ムルコト即チ隨意的借換ナルコト(第三)政府ノ信用大ニシテ市場又好況ヲ呈スルコトノ三者ニ在リ蓋シ政府ニシテ國債ノ借換ヲ強制スル場合ニ在リテハ固ヨリ條理ヲ破リシモノナルヲ以テ茲ニ之ヲ論述スルノ要ナキモ荷モ隨意的借換ヲ爲サンニハ事實借換ノ實効ヲ舉クルコトヲ期セスンハアラス故ニ一方ニハ政府ノ信用厚クシテ債權者カ政府ニ對スル不安ノ念慮ニ驅ラレテ之カ元金ノ償還ヲ求ムルカ如キコトナク一方ニハ金融市場好況ヲ呈シテ金利亦低落セル場合ナラスシハ非ス隨意借換ニシテ元金ノ

償還ヲ望ム者多キトキハ實ニ政府ノ信用ノ薄弱ヲ示スノミナラス財政ノ紊亂ヲ來ス可キモノタルヲ以テ金融市場ノ狀勢ヨリ債權者ノ種類現存國債ノ市場價格等ヲ對照シテ慎重ノ措置ヲ執ルコトヲ要ス普通各國ノ財政家ハ借換ノ標準トシテ其國債價格ノ平價ヨリ一割以上ニ上ルコトヲ條件ト爲スモノ、如ク價格下落ノ場合ニ借換シテ國債償還ノ義務ヲ拋棄シ政府破産ノ失態ヲ來セハ既ニ佛蘭西大革命ノ際ニ於テ見ル所タリ

上述スル所ニ據リ國債ノ借換ハ新進國又ハ戰後平和ニ復舊セル場合等ニ於テ最モ多ク之カ適用ヲ見ルコトヲ得ヘキコトヲ知ル可シ如何トナレハ其國債ノ利子ニ比シテ市場ノ利子下落スルコト多ケレハナリ現ニ我邦ノ如キ明治十九年一月以來兌換制度ヲ行ヒタルヨリ一般ノ金利俄ニ下落セ六分以上利附ノ在來ノ諸公債ハ皆額面以上ノ價格ニ上騰スルニ至リシヲ以テ同年十月勅令第六十六號ヲ以テ整理公債條例ヲ發布シ五分利附ニテ五箇年據置キ五十箇年ノ定期隨時支拂國債ト爲シ一億七千五百萬圓ヲ限リテ募集スルコト、ヤン明治二十六年ニ至リテ六分以上利附ノ國債ハ悉皆之ヲ償還シ了リ其間借換ノ爲メ生

シタル利子ノ差益ハ二百五十萬圓ヲ上ルニ至リタリ  
 國債ノ借換ヲ行フニ當リ研究ス可キ問題ハ割増借換法ニ依ル可キ割引  
 借換法ニ依ル可キ又ハ平價借換法ニ依ル可キ又在リ換言スレバ國債  
 ノ借換ニ際シ元金ヲ減少ス可キカ増加ス可キカ又ハ同額ト爲ス可キヤニ  
 在リ但割増借換法ハ利子ノ輕減ヨリハ寧ロ國債ノ元金ノ銷却ヲ目的トス  
 ルモノニシテ割引借換法ハ利子歩合ノ點ヨリ多分借換ノ便宜ヲ得可キモ  
 割引ニ因リ元金ヲ増加シテマテ借換ヲ爲ス必要ナク割引其モノ、不可ナ  
 ルハ既ニ前章ニ於テ説明セル所ナリ彼ノ一千八百八十三年英國カ額面百  
 磅三分利附ノ國債ヲ額面百八磅二分半利附ニ借換シカ如キ正ニ此弊ニ陷  
 レルモノナリトス  
 國債借換ハ一千七百十六年始メテ行ハレシ以來現時各國財政ノ整理上此  
 方法ニ依ラサル者ナシ茲ニ各國ニ於ケル國債借換ノ歴史ヲ叙述スルハ無  
 用ノ業ニ非サル可キモ事口財政學ニ於テハ少シク餘論ニ奔ルル雖ナモ  
 爲サ、ルヲ以テ茲ニ英國ノ借換ニ因リ大ニ經費ヲ節減スルコトヲ得シ

一方ニハ割引借換法竊私附又ハ年金附國債發行ノ愚ヲ學ヒシ爲メ幾分  
 カ借換ノ効驗ヲ削減シ佛蘭西ニテハ債權者カ多ク議會ニ勢力ヲ占メシヨ  
 リ國債ノ借換ハ政府當初ノ契約ヲ無視シテ人權ヲ蹂躪シ中産以下ノモノ  
 ヲ苦厄ニ陥ルモノナリトシテ一時借換ノ進歩ヲ妨ケンコトアルヲ一言ス  
 止ム可キ也  
 第二節 國債利子ノ引下  
 茲ニ國債ノ利子ノ引下ト稱スルハ政府カ國債ノ管理上借換以外ノ方法ニ依リ  
 テ國債ノ體様ヲ變更スル重ナル爲合ヲ指スモノニシテ通常償還期限ノ變更ト  
 相伴フヲ例ト爲スモノナリ  
 合法ニシテ且隨意ナル國債ノ借換ハ財政ノ整理上最モ缺ク可ラサル手段トシ  
 テ國家ノ信用ヲ増加ス可キ一手段タルニ拘ハラズ國債ノ利子ノ引下ニ至リテ  
 ハ其合意ニ出ツルト強制ニ出ツルトニ論ナク常ニ財政逼迫ニ際セル不祥ノ現  
 象トシテ國家ノ信用又減損ス可キ例外ノ手段タルヲ當ト爲スモノナリ蓋シ國  
 家ノ行動カ私人ノ行動ニ比シテ財政上特種ノ性質ヲ具スル所以ノモノハ一

國家ト私人ト其信用ノ性質程度ヲ異ニスルニ存スルヲ以テ其當初ノ契約ノ弊  
様ヲ變更スルカ如キハ國家ノ信用自體ヲ根本ヨリ破毀スルモノニ外ナラザレ  
ハナリ

第一款 合意ニ出ツル利子引下

合意ト強制ト孰レカ條理ニ協フ可キヤ字義其モノ、解釋ヨリスルモ一見其是  
非ヲ斷言スルニ疑ナキモノニ屬スルモ國債ノ契約變更ニ於テハ合意ニ出ツル  
利子引下ハ却テ財政上ノ弊害大ナルモノアルヲ見ルハ又奇異ナル現象ト云ハ  
スハ非ス然レトモ少シク其實例ニ就キ觀察スレハ合意ニ出ツル利子ノ引下  
カ財政上却テ困難ヲ重スル所以ノモノ又之ヲ解スルニ苦シマサル可シ今合意  
ニ出ツル利子ノ引下ト強制ニ出ツル利子ノ引下ニ付キ重ナル相異ノ點ヲ舉レ  
ハ次ノ如シ

合意ニ出ツル利子ノ引下ハ事實債權者ノ強制ニ起因スルコト多シ

強制ニ出ツル利子ノ引下ハ債務者ノ強制ニ起因スルヲ常トス

之ヲ國債ソノモノ、種別ニ依テ反面ヨリ觀察スレハ

合意ニ出ツル利子ノ引下ハ外國債ニ多ク、  
強制ニ出ツル利子ノ引下ハ内國債ヲ常トス

尙ホ之ヲ其經過ニ依リテ判斷スレハ

政府カ強制ニ出ツル利子ノ引下ヲ爲シテ債權者事實已ムナク默從シタル

トキハ強制ニ出ツル利子ノ引下成立シ若シ之ニ對シテ債權者反抗セルト

キ又ハ政府カ事實契約ノ不履行ニ基キ債權者進ミテ政府ニ交渉セルトキ

合意ニ出ツル利子引下成立ス

然レトモ余カ此論結下セルハ唯多數ノ場合ニ就テ言フモノニシテ當初ヨリ  
當事者双方ノ正當ノ合議ニ出ツル場合ナシト云フニ非ス而シテ若シ政府ノ財  
政カ契約ノ履行ヲ難シト爲ストキハ所謂正當ノ合議ニ出ツル利子引下ハ又決  
シテ非難ス可キモノニ非サルノミナラス好箇ノ方法ナリト云ハスハ非ス如  
何トナレハ政府不幸ニシテ財政逼迫タルトキ強テ契約ノ履行ヲ爲サントセ  
ハ却テ財政ノ紊亂ヲ累テ人民ノ負擔苛重ニ失シ國家全般ニ及ボス莫害大ナル  
ノミナラス債權者自體モ却テ得ル所無キニ終ル可キハ私人ノ債務關係ニ於テ

モ常ニ見ル所ニシテ此際或ハ利子ヲ引下ケ又ハ償還期限ノ延期ヲ爲スハ双方ニ於テ利益アリモノト云フスレハ非ズ但信用ハ失ヒ易キモ得ルニ難キモノナ  
ルヲ以テ成ル可ク契約ノ履行ニ勉メ戰時事變ノ際又ハ國民ノ納稅力餘リナキ  
ニ至レル時等已ムナキノ場合ニ於テ最後ノ手段トシケ用フ可キモノナリ  
正當ノ合意ニ出ツルモノ其例固ヨリ稀ナリトス私立會社ニ在リテ千八百  
六十七年以後四ヶ年間利子ノ支拂ヲ停止セル葡萄牙鐵道會社ノ如キ西班  
牙ノ「サラゴサ、バムベリ、ニンジ、バー」線路ノ如キハ成効セル實例トシテ  
認メラル、所ナリ

所謂政府ノ不履行等ニ伴ヒ債權者ノ強制ニ伴フ所謂外國債ノ利子ノ引下ノ場  
合ハ其例甚タ多ク其害毒ノ大ナルコト既ニ國債ノ項目ノ下ニ繰述セル所ニシ  
テ固ヨリ財政ノ行動上例外ノ場合ト認ム可キモノナルヲ以テ此ニ之ヲ省畧ス  
ヘシ

西班牙カ英佛利白等ヨリ募集セル所謂「コルテツ」國債ハ千八百三十一年ノ  
協議ニ因リ五分ノ一ハ五分利附國債トシテ直チニ償還シ殘餘ノ五分ノ四

割ハ三分利附トシテ年々四十分ノ一宛支拂フコト、シ支拂未済ノ利子モ額  
面ニ繰込ミタリカ後千八百三十四年及ヒ千八百七十六年ノ協議ニ因リ  
又變更スル所アリタリ

「チユニユ」政府カ千八百六十三年及ヒ千八百六十五年ニ募集セル七分利附  
國債モ利子支拂ノ義務不履行ニ因リ英佛以ノ干渉ヲ受ケ一方ニハ支拂未  
済ノ利子ヲ元金ニ繰込ミ一方ニハ七分利附ヲ五分利附ニ減シタリ  
埃及政府ノ外國債ニ至リテハ千八百七十六年英人「グー」氏債權者ノ  
總代トシテ當時七億八千萬圓ノ國債ノ處分ニ付キ協議ヲ盡クシ短期國債  
四千餘萬圓ハ額面二百圓ヲ百六十圓トシテ償却スルモノトシ別ニ一億七  
千萬圓ノ五分利附保證國債ト五億九千萬圓ノ七分利附會合國債ヲ起シ借  
換ニ依リテ之カ整理ヲ計ラントセシモ不幸ニシテ實効ヲ奏セス千八百七  
十八年再ヒ財政委員會合シテ多少ノ修正ヲ加ヘ在昔今日ニ至レリ

**第二款 強制ニ出ツル利子引下**  
政府財政上ノ困難ハ強制ニ出ツル場合ヨリ率々合意ニ出ツル場合ニ多シトハ

強制ハ合意ヨリ條理ニ合セリト云フニ非スシテ合意ニ出ツル場合ハ多ク事實債權者ノ強制ニ出ツル場合多キカ故ニ等シク一方カ意思ノ自由ヲ失フニ於テハ政府カ自由ヲ失フ場合ハ事實財政ノ困難大ナリト云フニ外ナラス然レトモ條理ヲ基礎トシテ論スレハ一ハ少クトモ形式ニ於テ合意タルヲ失ハサルノミナラス其債權者ヲシテ事實強制ニ出テシムル所以ノモノハ債務者ノ債務ノ不履行其他不法ノ行為ニ原因セルモノタル以上ハ自己ノ債務不履行ニ乘シテ不法ノ契約變更ヲ強制スルニ比スレハ固ヨリ同日ノ論ニ非サル可キナリ況キ正當ノ合意ニ出ラシ場合ニ於テヤヤ八百三十六年八月二十六日ノ裁判例ハ債務者ノ強制ニ出ツル國債ノ變更ニシテ最モ不法ナルモノハ債務者モノ、取消ニ在リ而シテ其實例ハ固ヨリ稀ナルモ多ク北米合衆國ニ於テ行ハレ千八百四十一年「ミスシッピ州」ニ於ケル負債取消ヲ以テ嚆矢ト爲シ千八百四十八年ニ至リテハ「フロリダ」「ミシシッピ」「アルカンサス」諸州亦此不法ナル惡例ヲ襲用シタリ利子ノ支拂停止ニ至リテハ當時尙ホ五州ノ多キニ上レリ近時ニ至ルマテ合衆國ノ國債ハ全ク歐洲ニ於テ信用ヲ失墜シタル亦毫モ怪シムニ足ラサルナリ

以テ損益ノ歸屬者ヲ定ムルトキハ管ニ利益ヲ多ク取得スル者ト少ク取得スル者トヲ生スル虞アルノミナラス甚シキハ一方ニハ利益ノミヲ取得スル者ヲ生シ他方ニハ損失ノミヲ負擔スル者ヲ生スヘシ是レ極メテ不公平ナル結果ニシテ特約ナキ場合ニ於ケル當事者ノ意思ニ反スルコト多カルヘシ當事者ノ意思ヲ推測スルニ讓渡人ニ在リテハ讓渡ノ日ヨリ總テ船舶ニ關スル利害ヲ脱スルノ考ナルヘク讓受人ニ在リテハ航海中ノモノヲ讓受タルホトナルカ故ニ該航海ニ因リテ生スル損益ハ總テ之ヲ引受クル考ナルヘシ仍テ航海中ノ損益ハ之一團トシテ總テ讓受人ニ歸スヘキモノトナシタルナリ

而レテ本條ハ唯讓渡人ト讓受人トノ關係ヲ規定シタルモノニ過キサレカ故ニ讓渡人又ハ讓受人カ第三者ニ對スル關係ハ之カ爲メニ變更ヲ受ケス例ハ讓渡人カ當該航海準備トシテ石炭ヲ買入レ爲メニ第三者ニ債務ヲ負ヘル場合ノ如キ其債務ハ依然トシテ讓渡人ノ債務ナリ唯該石炭費用ヲ讓受人ヨリ讓渡人ニ償フヘキノミ

又本條ハ航海ニ因リテ生スル損益ト云フカ故ニ航海ノ事業ヨリ生シタル損益

ヲ稱スルモノニシテ船舶自体ノ毀損ヨリ生ズル損益ノ如キハ此中ニ包含セズ  
 例ヘハ船舶自体ニ際レタル瑕疵アリタル場合ノ如キ又ハ船体自身カ讓渡ノ當  
 時全ク沈没シ居リシ場合ノ如キハ總テ皆民法ノ二般規定ニ從フヘキモノナリ  
 又損益ト云フハ畢竟航海事業ヨリ取得シタル總收入ト總支出トノ差異ヨリ生  
 スル結果ニシテ之ヲ讓受人ニ歸屬セシムルモノナリ  
 終リニ時効ニ因リテ船舶ヲ取得スル事柄ニ付舊商法カ第八百三十七條ヲ設ケ  
 其但書ニ於テ船長ハ時効ニ因リテ船舶ヲ取得スルコトヲ得ヌト規定シタルニ  
 新商法カ之ヲ削除シタル理由如何今序ヲ以テ少シク之ヲ述フヘシ  
 抑モ舊商法第八百三十七條但書ヲ設ケタル所以ハ他ナシ船長ト雖モ若シ時効  
 ニ因リテ船舶ヲ取得シ得ルモノトモ船長ハ遠ク海外ニ航行シ以テ全ク所有  
 者ノ干渉ヲ免レ遂ニ取得時効ノ期間ヲ經過スルノ惡所爲ヲ行フコトナキヲ保  
 シ難キヲ慮レタルニ因ルモノナリ然リト雖モ新民法ニ於テハ取得時効ノ要件  
 ヲ定メテ二十個年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且ツ公然ニ他人ノ物ヲ占有スルコ  
 トヲ必要トナシタリ然ルニ船長カ故意ニ船舶所有者ノ干渉ヲ離レ船舶所有者

カ遠隔ノ地ニ在リテ到底其力及ハサルヲ查察シ遠洋ニ航行シ居ル場合ノ  
 如キハ是レ決シテ平穩ノ占有ト云フコトヲ得ヌ且ツ又二十年ノ久シキ遠洋ニ  
 航行スルモ必スヤ外國ノ諸港ニ入津スルノ機アルヘシ斯ル場合ニ於テ船舶ハ  
 必ス船舶國籍證書ヲ所持スルモノトヲ要ス而シテ國籍證書ニハ船舶所有者ノ何  
 人タルカラ必ス記載セサルヘカラス然ルニ國籍證書ニハ異ノ所有者ノ氏名ヲ  
 記載シアルモノニシテ現占有者タル船長ノ氏名ヲ記載モス是レ豈ニ公然ノ占  
 有ト云フコトヲ得ンヤ殊ニ他方ニ於テ船舶所有者ノ爲メニ種々ノ救濟手段ア  
 リ例ヘハ船舶所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得新商第五七四條又  
 船長カ船舶所有者ニ對スル義務ヲ怠リタルトキハ之ヲ賠償セシムルコトヲ得  
 (新商第五五八條其他船員法ニ於テハ船長ニ對スル幾多ノ監督ノ規定アリ故ニ  
 船長ハ事實ニ於テ時効ニ因リテ船舶ヲ取得スルコト能ハサルナリ是レ特ニ新  
 商法カ前掲シタル舊商法ノ如キ規定ヲ設ケタル所以ナリ)  
 第六節 船舶ノ差押及ヒ假差押  
 船舶ノ差押及ヒ假差押ハ海商法ノ上ニ先取特權相當權ノ如キ優先權ヲ有ス

ル者ノミニ限ラス一般ノ債權者モ亦場合ニヨリテ之ヲ行フコトヲ得故ニ舊商  
 法ニ於テハ船舶債權者ノ章ニ於テ船舶ノ差押及ヒ假差押ニ關スル規定ヲ設ケ  
 タリト雖モ舊商第八五九條新商法ニ於テハ之ヲ船舶ノ章下ニ移シテ之ヲ規定  
 セリ新商法第五百四十三條ニ曰ク  
 差押及ヒ假差押ハ發航ノ準備ヲ終ハリタル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ  
 得ス但シ其船舶カ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限ニ在ラス  
 ト夫レ債務者ノ財産ハ債權者ノ便宜ノ時機ニ於テ之カ差押若クハ假差押ヲ爲  
 スコトヲ得ルヲ以テ通則トス然ルニ船舶ニ付テハ何故ニ斯ノ如キ特權ヲ認メ  
 テ既ニ發航ノ準備ヲ終ハリタルモノハ之ニ對シテ差押若クハ假差押ヲ爲スコ  
 トヲ得サルモノトナシタルカ蓋シ發航ノ準備ヲ終ハリタル船舶カ出航シ得ル  
 ト否トハ公益并ニ私益ノ上ニ非常ナル關係アリ定期船ハ勿論不定期船ニ在リ  
 テモ既ニ發航期日ヲ定メテ種々ノ準備ヲ爲シ終ハリタルニ當リ突然之カ發航ヲ  
 差止メラル、トキハ社會公衆ハ之カ爲メニ既ニ豫期シタル交通手段ヲ失シ幾  
 多ノ間接ノ損害ヲ被ムルコト之レアルヘク又船舶ニ對スル直接ノ利害關係人

タル船舶所有者船長其他ノ船員ハ勿論該船舶ノ備船者荷送人旅客等モ亦非常  
 ナル不利益ヲ被ムルヘキナリ此ノ如ク發航ノ準備ヲ終ハリタル船舶ニ付テハ  
 種々ノ利害關係人ヲ生スルカ故ニ獨リ船舶債權者又ハ其他ノ船舶所有者ノ債  
 權者ノ爲メニ該航海ノ利益ヲ犧牲ニスルニ忍ビサルナリ是レ實ニ前掲本文ノ  
 規定アル所以ナリ然リト雖モ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ之カ債  
 權者ハ發航ノ準備ヲ終ハル以前ニ債務履行ノ請求ヲ爲スヘキコトヲ忘リタル  
 ニ非ス且ツ此債權アリテ始メテ發航ヲ爲スコトヲ得ルモノナルカ故ニ該債權  
 ハ所謂擔保ノ原因ヲ爲セタルモノナリ仍テ船舶ハ該債權ノ擔保トナラサルコ  
 トヲ得サルナリ是レ其但書ノ規定アル所以ナリ

發航ノ準備ヲ終ハリタルトキトハ如何ナル場合ヲ云フカ事實問題ナルカ故ニ  
 畢竟爭ヲ生シタル場合ニハ裁判所ノ認定ニ一任セサルヘカラスト雖モ蓋シ發  
 航ノ準備トハ航海ノ準備ト云フト異リ既ニ艦裝ヲ終ハリ船長其他ノ船員ノ乘  
 組アルハ勿論荷物ノ船積旅客ノ乗込等モ亦總テ之ヲ終ハリタルモノト解セサ  
 ルヘカラス其船舶カ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務トハ其範圍極ク狭ク

テ例セハ豫テ航海ノ準備トシテ石炭ヲ買入レ置キ偶々之ヲ當該船舶ニ使用シタル場合ノ如キ其石炭代價タル債務ハ決シテ此中ニ包含セサルナリ又廣ク發航ノ準備ヲ終ハリタル船舶ト云フカ故ニ歐洲行ノ船舶ニシテ横濱ヲ發シ神戸ニ寄港スルモ寄港中神戸ニ於テ之ヲ差押ユルコトヲ得ス其他何レノ港ニ至ルモ亦同シ然シ神戸ニ於テ發シタル債務ノ爲メニハ但書ニ依リテ神戸ニ於テ差押ヘラル、コト之レアルヘシ

### 第五章 船舶所有者

#### 第一節 船員ノ行爲ニ對スル船舶所有者ノ責任

凡ソ他人ニ對シテ債務ヲ負擔スル者ハ無限ノ責任ヲ負フヲ以テ原則トス換言スレハ債務者ノ全財産ハ其債務ノ包括的擔保トシテ執行ノ目的タルモノナリ故ニ債務者ニシテ其財産ヲ増殖スレハ債權者ノ擔保ハ從テ増加シ爲メニ其辨濟ヲ受タルニ易ク反之債務者其財産ヲ減少スレハ債權者ノ擔保ハ從テ減少シタルモノニシテ其辨濟ヲ受クルニ難シ其狀恰モ被相続人ノ財産ノ増減ハ之カ承繼人タル相續人ノ利害ニ直チニ影響ヲ及ホスト一般ナリ故ニボアソナード

氏ノ如キハ債權者ハ債務者ノ承繼人ナリト云ヒ承繼人ナル文字ヲ斯ノ如キ廣キ意義ニ用井タリ又新民法第四百二十三條及ヒ第四百二十四條ニ於テハ特ニ債權者ヲ保護スル爲メニ學者ノ所謂斜及訴權及ヒ廢罷訴權ヲ認メテ之ニ與ヘタリ斯ノ如ク債務者ハ自己ノ全財産ヲ擔保トシテ債務履行ノ責ニ任スヘキヲ當然トス是レ實ニ動カスヘカラサルノ原則ナリ然ルニ社會ノ必要ハ往々ニシテ此原則ニ對シテ例外ヲ認ムルニ至ル其例外ヲ認ムル場合はレ之ヲ制限債務若クハ有限責任債務ト稱スルナリ

第一債務者カ其債務ニ對シテ或一定ノ最高限ノ額マテ其責任ヲ負フニ過キサ  
ル場合 此場合ニ於テハ債務者カ債務履行ノ責ニ任スル額ニ制限アルノミニ  
シテ債務者カ其債務ヲ履行セサル爲メニ債權者カ債務者ノ財産ヲ執行スル其  
執行ノ目的物ニ制限アルニアラス故ニ債權者ハ債務者ノ財産中如何ナル部分  
ニ付アモ之ヲ執行スルコトヲ得而シテ其責任ノ最高限ノ額ヲ定ムルハ或ハ絶  
對的ニ一定ノ總額ヲ明示シテ之ヲ定ムルコトアルベク或ハ相對的ニ或一定ノ



客觀的若クハ主觀的ノ狀況ニ依リテ定ムルコトアルヘシ就レニモ其額ニシテ一定スレハ足レリ又其有限責任ハ或特定ノ債權者ノミニ對シ又ハ或種類ノ債務ノミニ對シ又ハ或關係ノ債務ノミニ對スルコトアリ然レトモ債務者カ自己ノ一切ノ債務ニ對シテ有限責任ヲ負フ場合ハ吾人未タ其實例ヲ見サルナリ何トナレハ若シ之レアリトスレハ前述シタル無限責任ノ原則ヲ無視スルモノナレハナリ而シテ本場合ノ責任ノ額ヲ定ムル方法ニハ法律ノ明文ニ依リテスルモノアリ又債務者ノ意思ニ依リテスルモノアリ前者ノ實例ハ佛國法ニ於テ捕拿用私船ノ所有者カ其乗組員ノ不法行為ニ對シテ負フヘキ責任ヲ最高三万七千フランノ限度内ニ制限シ若シ其船舶ノ乗組員ノ數カ百五十人以上ニ進ムトキハ最高七萬四千フランノ限度内ニ制限シタリ又英國法ニ於テハ後ニ述ヘントスル如ク船舶所有者ノ責任ヲ船舶ノ噸數ニ比例セシメ一噸ニ付八磅トシ若シ人命ヲ損シ又ハ身体ヲ毀傷シタルトキハ一噸ニ付十五磅トシ之ヲ最高ノ責任トセリ(英國千八百九十四年八月二十五日商法第五〇三條)又後者即チ當事者ノ意思ニ依リテ責任ノ額ヲ定ムル場合ノ實例ハ合資會社ノ有限責任社員株

式會社ノ株主及ヒ匿名組合ニ於ケル匿名組合員ノ出資額ノ如シ尤モ新商法ノ如ク會社ハ總テ法人トシ匿名組合ノ營業ハ總テ名義人タル營業者ノ營業トスル立法主義ヲ採ルモノニアリテハ會社ノ債務ハ社員ノ債務ニアラサルカ故ニ此等ノ諸例ハ以テ法理上正確ナル實例トスルニ足ラスト雖モ合資會社ヲ非法人視スル立法主義ノ有限責任社員ノ出資額ハ本場合ノ異ノ適例ト云フヘシ又彼ノ保險契約ニ於テ保險證券ニ明記シタル保險金額填補スヘキ總損害トシテ當事者ノ見積リタル金額カ保險價格被保險物件カ保險セラレ得ヘカリシ金額ヲ超過スル場合ハ超過シタル部分ハ保險者之ヲ填補スルニ及ハス保險價格タケニ制限シテ之ヲ填補ス此場合ハ保險者當初保險金額ヲ填補スルノ約ヲナシタルモノナルカ故ニ是亦制限債務ノ一ナルカ如キ外觀アリト雖モ其似テ非ナルモノナルコトハ多言ヲ費ヤサシテ明カナリ蓋シ保險契約當然ノ性質トシテ保險者ハ保險價格以上ノ填補ヲ爲スヘキモノニ非サレハナリ

第二債務者カ其債務辨濟ノ爲メニ特定財産ノミニ付テ責任ヲ負フニ過キサル場合 第一ノ場合ニ於テハ執行ノ額ニ制限アルモ執行ノ目的物ニ制限ナシ故

三債權者ハ債務者ノ財産ノ部分ニ付テモ執行スルコトヲ得タリ然レモ此第二ノ場合ニ於テハ執行ノ目的物ノ上ニ制限アリ債權者ハ唯特定財産ノミニ付テ執行ヲ爲スコトヲ得又ハ特定財産ノミニヨリ辨濟ヲ受クルニ過キス故ニ若シ其特定財産ニシテ債權全部ヲ辨濟スルニ足ルトキハ債權者ハ毫モ損失ヲ被ムルコトナキモ若シ之ヲ辨濟スルニ足ラサルトキハ債權者ハ他ニ幾何ノ財産ヲ有スルモ債權者ハ之ニ手ヲ觸ルヘコトヲ得スシテ損失ヲ被ムルコトヲ免レス而シテ船舶所有者カ船長其他ノ船員ノ行爲ニ對スル責任ハ實ニ此第二種ノ制限債務ニ屬スルモノニシテ船舶所有者ノ財産ヲ海産ト陸産トニ區別シ船舶所有者ハ獨リ海産ノミヲ以テ責ヲ負フト爲ヌヲ以テ諸國多數ノ立法例トス而シテ我新商法ノ規定モ亦實ニ此種ニ屬ス事ハ追フテ之ヲ詳述スヘシ

彼ノ世襲財産ト普通財産トヲ區別シテ普通財産ノミニ一般債務ノ責ニ任スト爲スカ如キモ亦此場合ノ一例ナリ

第三右第一及ヒ第二ノ場合ノ要素ヲ合シタルモノニシテ債務者ハ或一定ノ最高限ノ額マテ特定財産ノミニ付テ責任ヲ有スル場合ニ此場合ハ責任ノ額ニ於

テ一定シ又債務者カ債務不履行ノ場合ニ債權者カ執行シ得ル其執行ノ目的物ニ制限アルナリ而シテ成法中斯ル有限責任債務ノ實例ハ吾人未タ之ヲ見サルナリ

吾人ハ以上制限債務ノ種類ヲ説明シタリ而シテ船舶所有者カ船員ノ行爲ニ對スル責任モ亦其制限債務ノ一例ナルコトヲ明言シタリ然ラハ何故ニ船舶所有者ハ船員ノ行爲ニ對シテ制限債務ヲ負フニ止マルカ其理由ノ主タルモノ二三ヲ列舉センニ一ハ船舶カ航海中ニ在ルトキハ船舶所有者ハ最早船員等ノ行爲ヲ指揮監督スルコトヲ得ス二ニハ航海ノ便宜ト安全トヲ計ル爲メニ船長ノ權限ヲ非常ニ廣大ナラシメ船長ハ船舶所有者ノ指揮命令ヲ待タスシテ重大ナル行爲ヲ行フコトヲ得ス三ハ船員ハ普通ノ勞務者ト異リ一定ノ試験ヲ經テ技術ニ堪能ナルコトノ公證アルモノナリ故ニ船舶所有者ニシテ適法ナル選任ヲ爲シタル以上ハ船員ノ技術上ノ過失ヨリ生シタル損害ハ恰モ不可抗力ニ比スヘキモノナリ(佛ノ「ガサレ」氏ノ如キハ實ニ此說ヲ唱テ然ルニ船舶所有者ハ船員ノ行爲ニ對シテ常ニ無限責任ヲ負ハサルヘカラストモハ安シテ航海業ニ

從事スルコトヲ得ス其結果延ヒテ國家ノ海運業ノ進歩ヲ妨クル虞アリト云フニ在リ此ノ如キ理由アルカ爲メニ船舶所有者ハ無限責任ヲ負ハシメテ制限債務ヲ負フコトハ諸國一般ニ之ヲ認ムルモ其制限債務ノ形式ニ付テハ之ヲ大別スレハ前述シタル第一種ニ屬スルモノト第二種ニ屬スルモノトノ二種ノ立法主義アリ即チ

第一責任額ヲ定ムル主義 是レ即チ船舶所有者ノ責任ヲシテ先キニ述ヘタル第一種ノ有限責任債務タラシメントスルモノニシテ英國ノ採用スル所ナリ即チ英國商船法第五百三條ニ規定スルカ如ク船舶所有者ハ各場合毎ニ一定シタル金額ノ割合ヲ以テ船舶ノ噸數ニ比例シテ責任ヲ負擔ス故ニ其責任額ヤ一定セリ然レトモ責任財産ハ一定セス何トナレハ唯金高ヲ以テ責任額ヲ定ムルノミナレハナリ此ノ如ク此主義タルヤ責任財産ヲ一定セス責任額ヲ定ムルモノナルカ故ニ船舶所有者カ縱令所謂海産全部ヲ喪失スルモ若シ陸産ヲ所有スルトキハ其陸産ニ付テ責任ヲ負ハサルヘカラス換言スレハ船舶所有者ノ海産ノ増減ハ債權者ニ取リテハ毫モ痛痒ヲ感セス故ニ船舶所有者ノ債權者ノ傍ヨリ見

レハ船舶所有者ノ一定シタル責任額ノ範圍内ニ於テハ極メテ安心ナル位置ニ立ツコトヲ得ルモノナリ是レ實ニ此主義ノ利益アル所ナリ然レトモ唯噸數ノミニ比例シテ責任額ヲ定ムル心不公平ト云ハサルヲ得ス即チ船舶ノ價格又ハ其種類ノ異ナルニ從ヒ例ヘハ汽船ト帆船トノ如キハ其間ニ差等ヲ設ケスンハ精密ナル規定ト云フコトヲ得ス殊ニ此主義ハ英國固有ノモノニシテ多ク他國ニ用非ラレス乃チ我國ノ如キモ亦容易ニ此主義ヲ採用スヘカラサルナリ

第二責任財産ヲ定ムル主義 此主義ハ即チ船舶所有者ノ責任ヲシテ先キニ述ヘタル第二種ノ制限債務タラシメントスルモノニシテ獨國并ニ佛國ノ採用スル所ナリ即チ船舶所有者ノ財産ヲ海産ト陸産トニ區別シ船員ノ行爲ニ對シテ船舶所有者ハ獨リ海産ノミニ付テ責任アリト爲スモノナリ抑モ航海業ノ頗ル危険多キ點ニ察シ該事業ノ進歩ヲ計ラシカ爲メニ苟モ船舶所有者ノ責任ヲ制限スル必要アリトスル以上ハ海産陸産ノ區別ヲ立テ、海産ノミヲ以テ責任財産ニ定メントスルハ頗ル其當ヲ得タルモノト云フヘシ然レトモ此主義タル第一ノ主義ト異リ責任額ニ於テ一定セサルカ故ニ若シ海産ノ範圍ニシテ増殖ス

レハ可ナルモ減少若クハ滅失スルトキハ債權者ヲ迷惑ハ亦察スヘキナリ換言  
 スレハ海産ノ滅失若クハ毀損アルハ債權者ノ爲メニ大ナル危険ト云フヘシ故  
 ニ此主義ヲ探ルモノニ在リテハ債權者保護ノ爲メニ新商法第五百四十五條ノ  
 如キ規定ハ是非トモ之ヲ設ケタルヘカラサルナリ然リ而シテ此第二ノ主義ハ  
 又其免責ノ方法ニ依リテ左ノ二主義ニ細別スヘシ  
 甲 執行主義 特別財産タル海産ヲ執行セシメテ船舶所有者者其責ヲ免ルル所ノ  
 主義ニシテ獨國ノ採用スル所ナリ  
 乙 委付主義 特別財産タル海産ヲ委付シテ船舶所有者者其責ヲ免ルル所ノ主義  
 ニシテ佛國ノ採用スル所ナリ  
 右甲乙二主義ヲ比較セシニ船舶所有者者保護ノ爲メニ特ニ其債務ヲ制限シタル  
 以上ハ必スシモ海産ニ付テ執行セシメスシテ可ナリ即チ船舶所有者ノ便宜ニ  
 從ヒ委付スルト否ト彼レノ擇ヒニ任カセテ可ナリ又債權者ノ傍ヨリ見ルモ執  
 行ノ勞ヲ執ルハ却テ不便ニシテ委付ヲ受クル方利益多カルヘシ何トナレハ海  
 産減少シテ船舶所有者者當然委付スル場合ノ如キハ之ヲ執行スルモ債權者ハ到

底全財産ノ辨濟ヲ受クルコト難シ若シ又執行シテ債權辨濟ニ充テタル後多少  
 殘額ヲ生スル程ノ海産現存スル場合ニ於テハ債權者ハ執行スルヨリモ委付ヲ  
 受クル方當然利益多シ蓋シ執行シテ殘餘アレハ返還セサルヘカラサルニ反シ  
 テ委付ヲ受クレハ全部自己ノ有ニ歸スルニ因ル且ツ又一步進シテ船舶所有者  
 全ク委付ヲ爲サ、ル場合ニ於テハ債權者ハ當然彼レヲシテ無限責任ヲ負ハシ  
 ムルコトヲ得ルモノナリ故ニ孰レニシテモ委付主義ノ方債權者ノ爲メニハ利  
 益アリ故ニ理論上ニ於テハ委付主義ヲ優レリトス殊ニ執行主義ハ獨國ノミニ  
 行ハル、ニ反シテ委付主義ハ佛國ヲ始メトシテ今後廣ク行ハル、傾向アリ故  
 ニ我國ニ於テ新ニ立法セントモハ委付主義ヲ採用スヘキハ當然ナリトス  
 尙ホ委付主義ヲ採用スルト執行主義ヲ採用スルトニ依リ結果ニ於ケル差異ヲ  
 指點スレハ左ノ如シ  
 (1) 委付主義ニ在リテハ委付セオルトキハ當然無限責任ヲ負フコト、爲ル隨テ  
 債務者不服行ノ場合ニ於テハ獨リ海産ノミナラス陸産モ亦債權者ノ執行ノ目  
 的ト爲ル反之執行主義ニ在リテハ常ニ有限責任ニシテ債權者ノ執行ノ目的ト

爲ルモノハ獨リ海産ノミニ限ル

(ロ) 委付主義ニ於テハ船舶所有者若委付スルト否トノ自由ヲ有スルカ故ニ委付權ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得即チ新商法第五百四十五條ノ規定ノ如キハ委付權ハ拋棄セタルヨリ生スル結果ト見ルモ可ナリ反之執行主義ニ於テハ執行權ハ債權者ノ獨占スル所ニ係ルカ故ニ債務者タル船舶所有者之ヲ如何トモスヘカラス唯其難ヲ免レント欲セハ執行ニ先テ任意的ニ債務全部ヲ辨濟スルニ在ルノ

(ハ) 委付スレハ委付ノ目的タル海産全部ハ總テ債權者ノ有ニ歸ス縱令其實價ハ債務全部ヲ辨濟シテ尙ホ餘剩アリト雖モ債務者之ヲ如何トモスヘカラス反之執行主義ニ在リテハ執行ノ結果債務全部ヲ辨濟シテ尙ホ餘剩アルトキハ其殘額ハ之ヲ債務者ニ返還セサルヘカラス此點ハ執行主義ノ方誠ニ公平ナルカ如キ觀アリト雖モ執行シテ債務ヲ辨濟シ尙ホ餘剩ヲ生スル場合ノ如キハ委付主義ノ方ニ於テモ債務者多クハ委付ヲ爲サ、ルヘキニ依リ毫モ不可ナル所ナキナリ

ス故ニ此點ヨリ觀察スレハ單ニ債權ヲ喪失セシセルコトハ甚タ苛酷ニ失スルカ如ク加之他ノ一方ヨリ觀察スルトキハ正當ノ理由ナクシテ自己ヲ利スル者即チ所謂他人ノ損害ニ因リテ自己ヲ利スル者ナキニ非ス此ノ如キハ正義ニ適合スルモノト謂フヘカラス故ニ法律ハ正理ト失權ノ規定トヲ調和シ得ヘキ規定ヲ設クタリ第四百四十四條即チ是ナリ之ニ依レハ手形上ノ權利ヲ喪失シタル者ト雖モ若シ或條件ヲ具備スルトキハ其權利ノ幾分ヲ回復スルコトヲ得而シテ其條件トハ手形債權ニ關スル不當利得ニ因ル法律關係ノ存スル場合ニ在ルコトヲ謂フナリ今之ヲ分解スルトキハ左ノ三條件ト爲ル

- 第一 手形上ノ債權ハ正當ニ成立セタルコト 故ニ其結果トシテ手形カ本來無効ナリシカ爲メ債權ヲ行フコトヲ得サリシトキハ此條文ノ適用ヲ受クヘキモノニ非サルナリ
- 第二 其債權ハ時効又ハ手形規定ニ依ル手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルコト
- 第三 其手形債權ノ消滅ニ因リテ利益ヲ取得シタル者アルコト

手形法

右三條件ノ具備シタル場合ニ於テハ手形債權ヲ喪失シタル者ハ其喪失ニ因リテ利益ヲ得タル者ニ對シテ求償ヲ爲スコトヲ得所謂手形債權者カ其手形債權ヲ喪失シタルニ因リテ利得ヲ得ル者トハ手形資金ノ義務者又ハ手形對價ノ義務者ニシテ其義務ヲ履行セサル者ナリ例ヘハ手形拂出人ハ支拂人ニ對シテ資金ノ支拂ヲ爲スヘキ義務アリ今若シ支拂人ニ於テハ振出人ヨリ資金ヲ受取リ引受ヲ爲シタルニ拘ハラズ其手形ノ支拂ヲ爲サハルトキハ不當ニ利得ヲ爲ス者ナリ又拂出人カ資金ヲ支拂フコトナクシテ手形ヲ振出し其對價ヲ受取リタルトキハ亦不當ニ利得ヲ得ル者トス故ニ是等ノ場合ニ於テ手形債權ノ喪失者ハ場合ニ從ヒ支拂人又ハ振出人ニ對シ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ求償ヲ爲スコトヲ得

以上ハ手形法則ノ全體ニ涉ル説明ノ概略ナリ次ニ内外交渉ノ手形法則ノ説明ヲ爲スコトヲ至當ナリト信スト雖モ其説明ヲ爲スニハ商法施行法及ヒ國際私法ノ範圍ニ論及スルコトヲ要シ手形法則ノ全體ニ通スルニ非サレハ了解レ難キコト多キヲ以テ後日ノ講演ニ讓ル

## 第二章 爲替手形

### 第一節 爲替手形ニ必要ナル記載ノ事項即チ爲替手形ノ形式的要件

商法第四百四十五條ハ所謂爲替手形ノ形式的要件ヲ定メタル規定ニシテ之ニ依レハ其事項ハ左ノ如シ

#### 第一 爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字

總論并ニ前章ニ述ヘタル如ク手形ニハ三種ノ區別アリ之ニ適用スヘキ規定モ亦異ナレリ然レトモ相類似スルモノナルカ故ニ彼此相混淆スル如キ危險アルヲ免レス此混淆ヲ避クルコトヲ目的トシテ爲替手形ニハ其爲替手形タルコトヲ示スニ足ルヘキ文字ヲ記載スルコトヲ必要トセリ蓋シ此規定ハ實ニ手形ノ區別ヲ一見明瞭ナラシムル便利アルノミナラス手形行爲ハ要式行爲ナリト云フ原則ヲ明カニスル點ニ於テ頗ル重要ナルモノトス

爲替手形ニハ爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字ヲ記載スルヲ必要ナリトスルモ其文字ハ手形ノ何レノ箇所ニ記載スヘキヤノ點ハ法文ノ明示セサル所ナリ

吾輩ノ信スル所ニ據レハ此文字ハ手形ノ主タル部分ニ記載シ殊ニ其表面ニ記載スヘキモノナリ何トナレハ若シモ何レノ個所ニ記載スルモ隨意ナリトセンニハ爲替手形ニ非サルモノモ或ハ之ヲ爲替手形ト變更シ得ル危険アルヲ免レサレハナリ法律ハ形式ヲ明確ナラシムルカ爲メ爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字ノ記載ヲ命ジ之ニ因リ却テ危害ヲ生セシムル如キ結果ヲ容ルヘキ理ナシ而シテ現今實行セラル、爲替手形ニ於テハ手形文言中ニ記ナス恰モ表題ノ如ク其初ニ記載スルモノヲ通例トス然レトモ他國ニ於テ行ハル、モノハ其文言中ニ記載スルヲ例トスルモノ、如シ

爲替タルコトヲ示スヘキ文字ハ我國ニ於テハ爲替手形ト書クノ外ナキカ如シ故ニ法律ノ命スル所ハ頗ル汎博ナルモ實際ニ於テハ此四字ヲ以テ之ニ充ツルコトト爲ルヘシ

右ニ述フルカ如ク爲替手形タルコトヲ示ス文字ハ必ス缺クヘカラサルコト勿論ナルモ尙ホ之ニ他ノ文字ヲ加フルモ爲替手形タルコトヲ示スニ害ナキ限リハ決シテ不可ナリト謂フヘカラス又外國語ヲ以テ作成スル爲替手形ニ於テハ

其國語ニ相當スルモノヲ記載スレハ足ル

第二 一定ノ金額

爲替手形ニ依リテ支拂フヘキ金額ハ一定ナルコトヲ要ス故ニ其金額カ一定セサルモノハ無効ナリ一定ノ金額ヲ以テ手形債務ノ目的ト爲スハ手形ノ流通上ニ於テ極メテ必要ナリト謂ハサルヘカラス蓋シ手形ハ交通上宛モ金錢ニ代用セラルヘキ如キモノナルヲ以テ支拂ハルヘキ金額ハ一見明瞭ナルヲ要スレハナリ故ニ例ヘハ金百圓乃至千圓ト記載スル如キハ爲替手形ノ金額トシテ無効ナリトス

爲替手形ノ目的ハ必ス一定ノ金額タルコトヲ要スルカ故ニ金額以外ノ物ヲ以テ爲替手形ノ目的ト爲ス手形ハ爲替手形タル効力ヲ生セス縱令其目的ハ有價證券ナルトキト雖モ決シテ爲替手形タルコトヲ得サルナリ但伊太利商法ニ於テハ爲替手形ナルモノヲ認メタレトモ我國ニ於テハ之ヲ採用セザリシ

爲替手形ノ金額ハ一定セサルヘカラスト云フ規定ノ結果トシテ種々ノ問題ヲ想像シ得ヘシ例ヘハ爲替手形ニ利息附ノ金額ヲ記載シタルトキハ其爲替手形

ハ有効ナリヤ否ヤ爲替金額百圓ト記載シ之ニ年六分ノ利息ヲ附スル旨ヲ記載シタル爲替手形ハ有効ナリヤ否ヤ換言スレハ斯ル場合ニ於テハ其金額ハ一定シタルモノナリト謂フコトヲ得ヘキヤ否ヤ獨逸手形法ニ於テハ利息ノ記載アルモ之ヲ以テ手形ヲ無効ナリトセス利子ハ記載ナキモノトセリ(獨逸手形法第七條)我商法ニ於テハ其第四百四十五條ニ一定ノ金額ノ記載アルコトヲ必要トシタルモ別ニ獨逸法ノ如キ規定ナシ然レトモ吾輩ハ斯ル記載ヲ爲シタル爲替手形ハ無効ナリト信スル者ナリ蓋シ一定ノ利率ノ記載アルトキハ手形ノ日附ト滿期日トヲ以テ其金額ヲ算出シ得タルニ非スト雖モ計算ヲ要シ始メテ金額ヲ知ルコトヲ得ルモノハ既ニ一定シタル金額ナリト謂フヘカラス況ヤ一覽拂ノ手形ナルトキハ其呈示ノ時ヲ豫知スヘカラス隨テ金額ハ一定セリト謂フヘカラスナルニ於テヲヤ

次ニ金額ハ如何ナル文字ヲ以テ記載スルコトヲ要スルカ舊商法ニ於テハ爲替金額ハ必ス文辭ヲ以テ記スヘキモノトシタルカ故ニ例ヘハ一ヨリ九ニ至ル數字ノミニテ金額ヲ示スモノハ無効ナリトセリ(舊商法第七一六條)改正商法ニハ

單ニ一定ノ金額トノミ規定シアリテ其金額ヲ表示スヘキ文字如何ヲ示サス之ヲ以テ解釋スレハ改正商法ニ於テハ舊商法ノ如ク必スシモ文辭ヲ以テ金額ヲ記載スルコトヲ要セス一ヨリ九ニ至ル數字ヲ以テ記載スルモ隨意ナリト謂フタルヘカラス但一定ノ金額ヲ表示スルニ足ルモノナラサルヘカラスコト勿論ナリ故ニ圓若クハ錢等ノ文字ヲ記入スルコトヲ要スルヤ言フ俟タサルナリ或ハ數字ヲ以テ金額ヲ記載スルコトハ容易ニ之ヲ變更スル危險アルヲ以テ文辭ヲ以テ記載モサルヘカラスト論スル者ナキニ非サル(ヘシト雖モ其危險ヲ避クルト否トハ各人ノ隨意ニ任スヘキモノニシテ法律ヲ以テ干渉スヘキコトニ非タルナリ)且數字ヲ變更セントスル者ハ文辭ト雖モ亦之ヲ變更スルコトヲ憚ラサルヘケレハ變更ニ難易ノ差別アルニ過キヌシテ之ヲ以テ規定ノ標準ト爲スヘキニ非ス是レ改正商法ニ於テハ舊法ノ如キ規定ヲ設ケザリシ所以ナリ

爲替手形ノ金額ハ必ス一定ナルコトヲ要ス今若シ一ノ爲替手形ニ於テ誤リテ二箇所ニ異リタル金額ヲ表示スル文字ノ記載アルトキハ其爲替手形ハ有効ナ



リヤ否ヤ若シ有効ナリトモハ其何レノ記載金額ヲ以テ正當ナルモノト爲スヘキヤ此問題ニ付テハ各國ノ法制相一致セス獨逸手形法ニ於テハ小額ノ記載ニ從テ支拂ヲ爲スヘキモノトセリ(獨逸手形法第五條三項)我改正商法ニ於テハ適用上多少ノ困難ヲ免レサルヘキモ主タル部分ニ記載シタル金額ヲ支拂フヘキモノトシ手形ノ効力ニハ影響ナキモノトセリ而シテ其主タル部分トハ果シテ何レノ部分ノ記載ヲ指スモノナルヤハ全然事實上ノ問題ニシテ法律問題ニ非ス故ニ各事件ニ付キ裁判官ノ判定ニ一任スル外ナシトス又爲替手形ノ金額ハ必スシモ我通貨ニ依リ之ヲ記載スルコトヲ要セス外國ノ通貨ヲ以テ其記載ヲ爲スコトヲ妨ケサルナリ

### 第三 支拂人ノ氏名又ハ商號

支拂人トハ畢竟手形ノ宛名ニシテ主タル義務者ト爲ルヘキ者ナリ但手形ニ支拂人トシテ指定セラレタル者ハ必スシモ主タル義務者ト爲ルニ非ス主タル義務者ト爲ルコトアルヘキ者ニ過キス而シテ其宛名ハ必スレモ氏名タルコトヲ要セス商號ヲ以テ氏名ニ代フルコトヲ得舊商法ニ於テハ單ニ支拂人ノ氏名ト

商法第三百九十八條ニ曰ク「保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケヌ又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ其契約ハ無効トス但保險者カ其事實ヲ知り又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ此限ニ在ラス」是レ保險契約ハ當事者ノ善誠ナル意志ヲ必要トスルハ勿論縱令過失ニセヨ重要ナル事實ニ付テノ陳示ヲ缺キタル場合ハ之ヲ無効トスルノ趣意ニシテ重要ナル事項トハ曩ニ説明シタルカ如シ但保險者カ之ヲ知レル場合ハ勿論普通ノ智識能力手段ヲ以テ之ヲ知ルヲ得ヘキニ之ヲ知ラスシテ契約ヲ締結スルトキハ其失竊口保險者ニ在ルカ故ニ彼力之ヲ知りテ契約シタルモノト推定シ該契約ヲ無効トセサルナリ

陳示ノ義務ハ保險契約者ニ要求セラレ、ノミナラス生命保險ニ在テハ被保險者ニモ此義務ヲ規定セラレタリ商法第四二九條是レ生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體ノ狀況ハ被保險者自身ノ最モ善ク知ル所ニシテ彼ニ之ヲ陳述セシムル必要ト場合多キカ故ナリトス

乙 保険料支拂ノ義務

109  
保險者カ損害填補ノ責ニ任スルハ之カ報酬トシテ保險料ヲ受タルカ故ナリ故ニ之ヲ支拂フコトハ保險契約者ノ義務ノ最モ明ナルモノナリ保險料ノ支拂ハ保險契約者ノ負擔スル所ナレトモ保險契約者ト被保險者カ別人ナル場合ニ前者カ破産ノ宣告ヲ受ケ將來支拂ノ義務ヲ盡スコトヲ得サルノ状態ニ陥レルトキハ被保險者カ之ニ代リテ保險料ヲ支拂ハサルヘカラス勿論被保險者カ最早保險契約ノ利益ヲ享クルヲ欲セサルトキハ必スシモ保險料ヲ支拂フニ及ハサルナリ(商法第四〇六條)  
保險料支拂ノ義務ハ一年間ノ時効ニ因リテ消滅ス(第四一七條)

丙 利益ヲ保護スル義務

保險契約ノ目的ハ避クヘカラサル損害ヲ填補スルニ在リ故ニ被保險者ハ能フ丈ノ注意ヲ以テ損害ヲ避クルコトヲ勉メ力及ハサル場合ニ始メテ保險者ノ填補ヲ受クヘキモナルヲ記憶セサルヘカラス自己ノ家屋財産ヲ火災保險ニ付シタリトテ火ノ用心ヲ粗末ニシ或ハ近傍ヨリ出火シテ自家ニ延焼

來ルヲ見ナカラ荷物ヲ運出ナスシテ冷然タル如キハ不可ナリ商法第四百十四條ニモ被保險者ハ損害ノ防止ヲ力ムルコトヲ要スト規定セリ而シテ之カ爲メニ必要又ハ有益ナリシ費用ハ保險者之ヲ負擔スト規定セル位ナレハ被保險者カ此義務ヲ果サ、リモハ保險者ハ填補ノ責任無シト解釋シテ可ナルヘシ且又第三百九十六條ニ保險契約者若クハ被保險者カ重大ナル過失ニ因リテ生セシメタル損害ハ保險者之ヲ填補スルヲ要セストアルモ畢竟利益ヲ粗末ニシタル場合ノ制裁ニ外ナラサルナリ  
前述二箇條ノ規定ハ損害保險ニ限リテ適用セラルヘキモノニシテ生命保險ニ付テハ第四百三十一條ヲ此義務ニ對スル制裁ト看做シテ可ナリ

丁 危險ノ變更ヲ通知スル義務

危險ハ保險契約ノ要素ニシテ其程度ニ由リテ保險料確定シ當事者ノ合意亦成立ス故ニ保險契約者ハ契約ノ當時ニ於テ些ノ隱蔽遺漏アルコトナク巨細ニ危險ノ狀況ヲ陳示スル責任アルノミナラス契約成立後常ニ危險ノ狀況ニ注意シテ之カ變更又ハ増加ヲ認メタルトキハ直チニ之ヲ保險者ニ通知セ

ルヘカラス而シテ此義務ヲ怠レハ契約ノ無効ニ歸スルコト無論ナリ之ニ就  
 テハ商法第四百十一條第二項及ヒ第三項ニ詳細ノ規定アリ  
 危險ノ變更増加ニハ之カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因  
 ルト然ラサルトノ二個ノ場合アリ我商法ハ此各場合ニ對スル規定ヲ異ニシ  
 前者ニ對シテハ當然保險契約ノ効力ヲ失ハシメ後者ニ付テハ保險者ニ契約  
 ノ解除ヲ許セリ共ニ保險者ヲ保護スル爲メナリ然レトモ是レ不必要ナル區  
 別ニシテ縱令契約者ノ責ニ歸スヘキ變更増加ナリトモ之ヲ保險者ニ通知セ  
 シムル義務ヲ規定シ置カハ保險者ヲ保護スルノ道ニ於テ缺クル所無キノミ  
 ナラス却テ保險者ヲシテ契約ヲ失ハサラシムル利益ヲ得セシムルモノナリ  
 故ニ予ハ商法第四百十條ヲ不必要ト感スルナリ  
 而シテ所謂危險ノ變更増加ハ著シキ變更増加ナラサルヘカラス些細ナル變  
 更増加ニモ此義務ヲ負ハシムルハ契約者ニ對シテ酷ニ過クルト言ハサルヘ  
 カラス但著シキト云フコトハ頗ル漠然タルコトニシテ結局事實問題ニ入り  
 テ裁判官ノ認定ニ委セサルヘカラサルコトナリ

戊 損害ヲ通知シ且之ヲ證明スル義務

危險發生シテ損害起リタル場合ニハ保險契約者又ハ被保險者或ハ保險金受  
 取人ハ直チニ其旨ヲ保險者ニ通知シ且之ヲ證明セサルヘカラス直チニ通知  
 セサルヘカラサル必要ハ保險者ヲシテ充分速ニ其損害ノ眞偽ヲ鑑別セシメン  
 カ爲メナリ例ヘハ生命保險ニ於テ被保險者カ死亡シ葬式ヲ濟マセ尙ホ數日ノ  
 後ニ之ヲ保險者ニ通知スル如キコトアラハ該死亡ニ付テ保險者カ疑問ヲ挾  
 ムトキト雖モ之ヲ解クノ手懸リヲ埋沒セシメラレテ又如何トモスル能ハサ  
 ルノ不理ヲ來スカ如シ故ニ我商法ニモ第四百十二條第四百三十二條ニ連  
 無ク損害ノ發生ヲ通知スル義務ヲ彼等ニ強制セリ  
 而シテ損害ヲ證明スル義務ハ之ニ附隨シテ當然存在スルモノニシテ例ヘハ  
 生命保險ニ在テハ主治醫ノ死亡證明書及ヒ戸籍吏ノ證明ヲ以テ被保險者ノ  
 死亡ヲ證シ火災保險ニ於テハ損害調査ヲ差出サシメ海上保險ニ於テ海損計  
 算書ヲ提出セシムルカ如シ

務ニシテ之ニ對スル保險者ノ權利アルモノト知ルニ及リ而シテ損害發生シテ保險者カ之ヲ填補セタル後ハ保險者ハ被保險者カ從前其目的ニ付テ有シタル權利ヲ悉皆取得ス例ヘハ保險ニ付セラレタル船舶沈没シ被保險者カ保險金ノ支拂ヲ受ケタルトキハ彼カ該船舶ニ付テ有シタリシ權利ハ悉皆保險者ニ移リ保險者ハ船舶ヲ引キ揚ケ之ヲ賣却シテ價ヲ得ルコトヲ得ルナリ但船價ノ半カ保險金額ナリシ場合ニハ賣却額ノ半ハ被保險者ニ屬シ半ハ保險者ニ歸スルカ如ク取得スル權利ハ彼カ賠償ヲ爲シタル限度ト比例ニ由テ定マルモノトス又該船舶沈没ノ原因カ他ノ船舶ノ衝突ヨリ起レル場合ノ如キハ保險者ハ勿論被保險者ノ權利ヲ讓リ受ケテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルナリ(第四一五條第四一六條)

此事タル總テノ保險ニ適用セララルヘキ道理ナレトモ火災ノ如キハ大體財産ヲ燒キ盡シテ餘ヌ所無ク又被保險物中燒ケ殘リタル部分ニ付テハ保險金ヲ拂ハサルカ故ニ保險者カ取得スヘキ權利ヲ留メサルヲ普通トスレトモ海上保險ニ於テ屢々發生スル所ノ事實ナルカ故ニ之ニ關シテ特ニ委付ノ規定ヲ設ケタリ次

ニ少シク之ヲ説明セント欲ス

海上保險ニ於テ被保險者カ利益ノ殆ト全部ヲ失ヒタリト看做サル、モ而モ尙ホ詳細綿密ナル調査計算ヲ施コシ又手段ヲ盡テハ利益ニ多少ノ殘留分ヲ發見スルコト無キニ非ス然レトモ被保險者ヲシテ可成速ニ損害ノ回復ヲ得セシムルコトハ保險契約ノ本旨ニシテ而モ被保險者ニ此ノ如キ面倒ナル調査手段ヲ盡スコトヲ強制スルコトハ此本旨ヲ没却スルモノナルカ故ニ多少ノ殘留分カ想像セラル、場合若クハ未タ必スシモ損害カ發生シタリト斷定スヘカラサル場合ト雖モ被保險者ヲシテ速ニ賠償ヲ得セシメンカ爲メニ保險ノ目的ニ付テ彼カ權利ヲ保險者ニ讓渡シテ保險金額ノ全部ヲ請求セシムルコトヲ許セリ之ヲ委付ト稱シ我商法第六百七十一條以下ニ規定セリ而シテ被保險者カ之ヲ行ヒ得ル場合左ノ如シ

- 一 船舶カ沈没シタルトキ
- 二 船舶ノ行方カ知レサルトキ
- 三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ

四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ  
五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六ヶ月間解放セラレサル

トキ  
保險者ノ義務タル保險金支拂ハ二個年ノ時効ニ因リテ消滅スルコト我商法ノ規定スル所ナレハ被保險者又ハ保險金受取人ハ損害ノ發生ヲ知リタルトキヨリ二個年間ニ保險金ノ請求ヲ爲サ、ルトキハ其權利ヲ失フモノナリ二個年ノ時効ハ随分短期ナリ而モ之ヲ保險契約ニ規定シタルハ例ノ保險金ヲ速ニ支拂フコトカ保險契約ノ主眼ニシテ二個年以上モ保險金ヲ請求セサル者ハ損害ヲ苦痛トセス又隨テ之カ急速ナル填補ヲ必要トセス希望セス最早保險金ヲ得ントスル意志無キモノト推測シタルニ由ルナリ且又損害ヲ證明スヘキ諸種ノ證據ハ貸金證書ノ如キ單純明瞭且保存シ易キモノニ非ス複雜ニシテ湮滅シ易ク長キ期間ノ後ナラストモ當事者間ニ爭論ヲ惹起サシメテ加フルニ裁判官ヲシテ之カ判定ニ苦シマシムル恐アルヲ以テ二個年ノ短時効ヲ特定シタルナリ

ハ非ナリ定款事項トシテ揭示シタル條項ハ之レ無クレハ定款ヲ成スコト能ハサル必要事項ヲノミ規定シタルナリ故ニ存立時期ノ如キ必スシモ之ヲ定ムルコトヲ要セサルモノハ之ヲ掲載セサルヘキハ當然ノ理ナリ之ニ反シテ登記事項ニ在リテハ會社ノ地位ヲ公示スル趣旨ニ基クモノナルヲ以テ存立時期ヲ定メタルトキハ之ヲ登記スヘシト規定セルノミ其存立時期ハ何ニ由リテ定マルヘキヤハ同條ノ條ノ條ノ條ニ非ス而シテ會社ノ生命ハ法令又ハ定款ノ規定ニ依リテ定マルヘキモノニシテ社員間ノ契約ニ依リテ定マルモノニ非サルナリ存立時期ノ満了其他定款ニ定メタル事由ノ發生ニ因リ會社カ解散スヘキ場合ニ於テハ總社員ノ同意ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得然レトモ此場合ニ於テ會社ヲ繼續スルニハ常ニ總社員ノ同意ヲ要スルモノトセハ社員中一人ニテモ不賛成者アレハ會社ハ解散セサルヘカラサルニ至リ甚タ不便ナルヲ以テ法律ハ一部社員ノ同意ヲ以テモ猶會社ヲ繼續シ得ルモノトセリ但シ此場合ニ同意ヲ爲サ、リシ社員ハ退社ヲ爲シタルモノト看做サル(第七五條)

總社員ノ同意ニ依リ會社ヲ解散スルハ所謂任意ノ解散ナルヲ以テ定款ニ何等ノ規定ナキ場合ト雖モ之ヲ以テ解散シ得ルハ勿論ナリ

(三)會社ノ合併

會社ノ合併トハ二個ノ會社カ一個ノ會社ト爲ルヲ云フ合併ニ二種アリ其第一ハ二個ノ會社中一ノ會社消滅シテ他ノ一ノ會社ニ合併スルナリ第二ノ場合ハ二個ノ會社消滅シテ新ニ一ノ會社成立スルナリ何レノ場合ニ於テモ會社ノ合併ハ總社員ノ同意ヲ以テスルニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス(第七七條)

合併ハ第一ノ場合ニ於テハ合併セラル、會社ニ於テハ解散ナレトモ合併ヲ受クル會社ニ於テハ解散ニアラス又第二ノ場合ニ於テハ二個ノ會社解散シテ新ナル一ノ會社成立スルナリ故ニ合併ハ常ニ解散ノ原因トナルト云フ能ハス唯合併ナル事實アレハ何レノ會社カハ必ス解散セサルヲ得ス或學者ハ會社ノ營業全部ノ讓渡ヲ論シテ會社ノ合併ヲ營業全部ノ讓渡ノ一種トセリ即チ第一ノ場合ニ於テハaナル會社ハ自己ノ營業全部ヲbナル會社ニ讓渡セルモノナリ又第二ノ場合ニ於テハa bナル會社各其營業ノ全部ヲ新ナルc會社ニ讓渡セ

ルモノト見ルナリ而シテ營業全部ヲ讓渡セハ會社ノ目的タル營業其物ヲ失フヲ以テ其營業ヲ讓渡スル決議ハ會社ノ死亡即チ解散ヲ成スト説明セリ此説明ハ第一ノ場合ニ於テハ可ナルモ第二ノ場合ニ於テハ不理論タルノ誹ヲ免レス何トナレハ此場合ニ於テa bナル二個ノ會社消滅シ新ナルc會社成立スルモノナルヲ以テ未ダ成立セサルc會社ニa及b會社ノ營業全部ヲ讓渡スルハ不能ナレハナリ

會社カ合併ヲ爲スニハ左ノ手續ヲ爲サハルヘカラス

(一)合併ノ決議ニハ總社員ノ同意ヲ要ス(第七七條)

(二)合併ノ決議ヲ爲シタル日ヨリ二週間内ニ會社ノ債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期限内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告シ且ツ知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス(第七八條)

若シ債權者一定ノ期間内ニ異議ヲ述ヘサリシトキハ合併ヲ承認シタルモノト看做ス若シ又債權者異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ之ニ辨濟ヲ爲スカ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス若シ辨濟セス又ハ相當ノ擔保

ヲ供セシテ合併シタルトキハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス(第七九條)又會社カ公告スル義務アルニ拘ハラズ公告ヲ爲サズシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ヲ以テ總ヘテノ債權者ニ對抗スルコト能ハス又會社カ知レタル債權者ニ對シ催告ヲ爲サズシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ其催告ヲ受ケサリシ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス(第八〇條)

會社カ合併シタルトキハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立セラレタル新會社ニ移ル故ニ合併ハ會社ノ解散原因ナレトモ合併ニ因リ解散シタルトキハ清算ノ問題起ラス何トナレハ解散セラレタル會社ノ權利義務ハ當然合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立セラレタル新會社ニ移レハナリ(第八二條)

會社合併シタルトキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス其方法ハ第八十一條ニ規定セリ一讀明瞭ナルヲ以テ説明ヲ省ク

(乙)無意ノ解散

無意ノ解散原因ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一)會社ノ破産

(二)裁判所ノ命令 裁判所ノ命令ニ因リ解散スヘキ場合ハ第四十七條第四十八條及第八十三條等ノ場合ナリ

(三)會社ノ目的タル事業ノ成効ハ又ハ其成効ノ不能

(四)社員一人ト爲リタルトキ

民法第六十八條ニ於テハ社員ノ缺亡ヲ以テ社團法人ノ解散原因トセリ故ニ民法ノ規定ニ依ルトキハ社員一人ト爲ルモ尙ホ法人ハ解散セス是レ合名會社ノ規定ト異ル所ナリ理論トシテハ民法ノ規定正當ナラント信ス何トナレハ社團法人ヲ設立スルニハ少クトモ二人ノ社員ナカルヘカラスト雖モ一旦法人成立シテ獨立ナル人格ヲ有スルニ至リタル以上ハ社員ノ存在ト法人ノ存在トハ全く別物ナレハナリ極論スレハ社員缺亡スルモ法人ハ尙ホ存在シ得ルモノト云ハサルヘカラス法人ノ機關ノ如キモ必スシモ社員ヲ以テ之ニ充テサルヘカラスト云フノ理ナシ然レトモ亦理論ヲ離レテ實際上ヨリ觀察スルトキハ尙モ社團法人タル以上ハ社員缺亡スレハ社團法人モ亦解散スルモノトスルハ止ムヲ

得サル規定ナリ而シテ合名會社設立ノ目的ハ數人共同シテ商業ヲ營ムニ在ルヲ以テ其社員一人ト爲リタルトキハ之ヲ會社トシテ存續セシムル必要ナキナリ

### 第六節 清算

第八十四條ニ曰ク會社ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做スト是レ會社ハ本來解散ニ因リテ其人格ヲ失フヘキヲ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト法律カ推定セルナリ此推定ニ因リテ會社ナル法人々格ハ法律上未タ消滅セサルナリ然レトモ其人格ノ行動ノ範圍ハ全ク一變ス乃チ解散ニ因リテ會社ハ化生セルナリ會社ハ解散ニ因リテ死亡セルニ非ス化生セルナリ解散後會社ノ化身ハ生ス假ニ之ヲ清算會社ト稱スルモ可ナリ

解散ノ目的ハ會社人格ノ死滅ニ在リ是ニ於テ會社ハ全ク其生産力ヲ絶止スルナリ其生産力ヲ絶止スル結果從來ノ營業ヲ廢止シテ其現務ヲ結了シ其債權ヲ取立テ其債務ヲ辨濟シ殘餘財産アルトキハ之ヲ社員ニ分配ス是ニ於テ會社ハ

總テノ權利義務ノ關係ヲ解脱シテ其最後ヲ遂クルコトヲ得ルナリ故ニ會社ハ解散ニ因リテ直ニ其人格ヲ失フニ非スシテ清算ノ結了ニ因リテ始メテ死亡スルナリ

清算ハ解散後ノ會社財産ノ處分手續ナリ而シテ解散後ハ必ス常ニ此手續ヲ要スルニ非ス合併又ハ破産ニ因ル解散ハ別ニ法定手續ノ規定アルヲ以テ清算手續ニ依ラサルナリ(第八六條)

清算手續ニ二様アリ一ハ法定清算ニシテ一ハ任意清算ナリ任意清算トハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ定メタル會社財産ノ處分方法ナリ舊商法ニ於テハ任意清算ヲ許サス破産ノ場合ヲ除ク外ハ必ス毎ニ法定清算ニ由ラサルヘカラスト規定セリ然レトモ合名會社ハ常ニ少數社員ヲ以テ組織セラレ又其社員ハ皆無限責任ヲ負フ者ニシテ殆ト民法ノ組合ト同様ノ觀アルヲ以テ會社ノ内部關係ニ於テハ已ニ組合規定ヲ準用セルカ如キ次第ナルヲ以テ會社財産ノ處分方法ニ付テモ亦タ總社員ノ同意ヲ以テ任意ニ之ヲ定ムルコトヲ許スモ亦妨ナシ例ヘハ會社財産ヲ現物ノ儘ニテ分配スルカ如キハ最モ合名會社ニ於テ其必要



ヲ見ルヘクシテ又實際之カ弊害トシテ認ムヘキモノナシ然レトモ會社財産ノ分配ハ先ツ會社ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後ナラサルヘカラサルヲ以テ債權者ヲ保護スル規定ナカルヘカラス是レ商法第八十五條第二項ニ於テ合併ノ場合ニ債權者ノ爲メニ設ケタル規定即チ第七十八條第二項第七十九條第八十條ヲ準用セル所以ナリ此準用ノ結果トシテ會社ハ解散ノ決議後二週間内ニ其債權者ニ對シ異議アラハ二ヶ月以上ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告シ且ツ知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要シ債權者カ其期間内ニ異議ヲ述ヘサルトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス若シ又債權者カ之ニ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ之ニ辨濟ヲ爲スカ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ清算ヲ爲スコトヲ得ス此手續ニ違反シテ爲シタル清算ハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス又會社カ前述ノ公告ヲ爲サシテ爲シタル清算ハ之ヲ以テ總テノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス知レタル債權者ニ催告ヲ爲サシテ爲シタル清算ハ之ヲ以テ其債權者ニ對抗スルコトヲ得サルナリ

清算ハ必スシモ解散ノ結果ノミニアラヌ會社カ事業ニ着手シタル後其設立ノ

取消サレタル場合ニモ亦清算手續ニ依ルコトヲ要ス(第一〇〇條)蓋シ會社ノ設立ノ取消サレタル場合ニハ會社ハ始ヨリ存在セザルコト、ナルナリ故ニ會社ノ解散ト謂フコト能ハス然レトモ債權者ニ對スル關係ヨリ此場合ニ於テモ亦清算手續ニ依ラシムル必要アリ而シテ初ヨリ會社成立セサリシモノナルヲ以テ從テ又社員ナルモノナレ故ニ其清算人ハ利害關係人ノ申請ニ因リ裁判所之ヲ選任ス

法定清算手續ハ第八十七條以下十三條ニ規定セラルル今其要領ヲ略述セシ

一 清算手續ヲ行フ者

清算手續ヲ行フ者ハ第一總社員ナリ第二清算人ナリ合名會社ニ在リテハ其社員少數ナルヲ以テ平常業務ノ執行ニ關シテモ總社員之ヲ爲スコトアルナリ然レハ清算手續ニ於テモ亦總社員カ之ヲ行フコトヲ妨ケサルヘシ故ニ新商法ハ舊商法第百二十九條ノ規定ヲ改メテ民法第六百八十五條ノ組合ノ清算ニ關スル規定ニ依ヒ總社員カ共同シテ清算事務ヲ行フコトヲ認メタルナリ(第八七條)

二 清算人ノ選任及解任

總社員共同シテ清算ヲ行ハサルトキハ社員ハ清算人ヲ選任セサルヘカ決ス清算人ノ選任ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス(第八七條第二項)然レトモ第七十四條第五號ノ場合即社員カ一人ト爲リタルニ因リ解散スル場合ニハ其殘留セル一人ノ社員ヲシテ清算事務ヲ行ハシムルハ極メテ弊害ヲ生スル恐アルナリ何トナレハ社員カ一人ト爲ルニハ必ス退社員アル場合ナルヘシ此場合ニハ退社員アルトキハ直ニ解散ト爲ルヲ以テ退社員ノ持分ノ拂戻モ亦清算事務ノ一部ナリ此ニ於テ昨日マテ同等ノ權利ヲ以テ會社業務ヲ執行シタル者カ今日其退社ト共ニ會社解散シ殘餘財産ノ分配セラル、ニ當リ全ク他ノ一人ノ自由ニ其持分ヲ計算セラル、カ如キハ條理上甚タ好マシカラズ又第三者ニ對スル關係ニ於テモ種々ノ弊害モ生スヘキヲ以テ此場合ニハ裁判所カ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任スルナリ(第八八條)

又會社カ裁判所ノ命令ニ因リ解散シタルトキハ清算人ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ選任ス(第八九條)蓋シ裁判所カ解散ヲ命スル場合ハ第

一 會社カ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後六个月内ニ開業ヲ爲サザルトキ(第四七條)第二會社カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ(第四八條)第三已ムコトヲ得サル事由ヲ以テ社員カ解散ヲ請求シタルトキ(第八三條)等ニシテ皆會社ノ内部ニ於テ不正又ハ不穩ノ事由アル場合ナルヲ以テ其社員ヲシテ清算事務ヲ行ハシムルハ危險ノ虞アレハナリ故ニ會社カ解散ヲ請求スル人ハ之ヲ解任スルコトヲ得ヘシ社員カ清算人ヲ選任シタルトキハ社員ハ何時ニテモ之ヲ解任スルコトヲ得又裁判所ハ重要ナル事由アルトキハ社員ノ選任シタルトキ裁判所カ選任シタルトク問ハス利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得ルナリ(第九六條)

清算人ノ選任及解任ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス乃チ選任アルタルトキハ二週間内ニ清算人ハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ自己ノ氏名住所ヲ登記スルコトヲ要シ解任又ハ變更アリタルトキハ二週間内ニ本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ解任又ハ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス(第九〇條)第九七條

三 清算人ノ職務及權限

清算人ノ職務ハ第九十一條第一項ノ規定スル所ナリ即チ左ノ如シ

一 現務ノ結了

二 債權ノ取立及債務ノ辨濟

三 殘餘財産ノ分配

是レ民法第七十八條法人ノ清算人ノ規定ト同一ナリ唯民法上ノ法人ニ在リテハ殘餘財産ハ必スシモ社員ニ分配セサルヲ以テ殘餘財産ノ分配ト云ハスシテ引渡ト云フナリ  
清算人ハ此職務ヲ行フタメニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス尤モ清算人數人アルトキハ其過半數ヲ以テ之ヲ決スト雖モ第三者ニ對シテハ各自會社ヲ代表スル權限アリ即チ清算時期ニ於テハ會社ノ業務執行權ト會社代表權トハ一ニ清算人ノ手ニ在ルナリ又此清算人ノ權限ニ制限ヲ加フルモ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコト能ハス恰モ支配人ノ權限ノ如キナリ第九一條第一項第二項第九三條  
清算人ハ就職後直ニ會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作り之

ヲ社員ニ交付スルコトヲ要ス定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ會社財産ノ處分方法ヲ定メタル場合ニ於テハ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ラシムルニ清算人ハ就職後遲滞ナク之ヲ作ルコトヲ要ストセルハ清算人ノ責任ノ重大ナルカタメナリ第九四條第八五條清算人ハ又社員ノ請求アルトキハ毎月清算ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス第九四條第二項

清算人其職務ヲ行フニ當リ會社ノ財産カ其債務ヲ辨濟スルニ足ラサルコトヲ發見シタルトキハ直ニ裁判所ニ破産宣告ノ請求ヲ爲シ且ツ其旨ヲ公告スルコトヲ要ス破産宣告ノ請求ヲ爲シタルトキハ清算手續ハ絶止シテ破産手續ト爲ルヲ以テ清算人カ其事務ヲ破産管財人ニ引渡シタルトキハ清算人ノ任務ハ終了ス若シ破産宣告請求前ニ於テ清算人カ已ニ或債權者ニ辨濟シタルカ又ハ社員ニ分配シタルモノアルトキハ破産管財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得ルナリ第九一條第三項  
又會社ニ現存スル財産ヲ以テ會社債務ヲ辨濟スルニ足ラサル場合ニ社員ノ出資ニ未拂込ノ部分アルトキハ清算人ハ其出資ノ辨濟期ニ拘ハラズ直ニ拂込マ

シムルコトヲ得社員ノ出資モ會社ニ對スル債務ナリト雖モ社員ハ會社債務ニ  
 行キ第三者ニ對シテ責任ヲ負フ者ナルヲ以テ會社ノ債務ヲ辨濟スルカ爲メニ  
 ハ辨濟期ニ拘ハラス其出資ヲ爲サ、ル可カラサルナリ此未拂出資ハ會社ノ債  
 權ニシテ會社財產ノ一部ナリ若シ未拂出資ヲ合スルモ尙ホ會社債務ヲ辨濟  
 スルニ足ラサルトキハ遂ニ前段ニ述ヘタル破産宣告ノ申請ヲ爲サ、ルヘカラ  
 ス合名會社員ハ會社ノ債權者ニ對シテ無限責任ヲ負擔スト雖モ此責任ハ會社  
 財產ヲ以テ辨濟スルコト能ハサル場合ニ生スルモノナレハ會社カ破産手續ヲ  
 終ラサル間ハ社員ハ辨濟義務ナシ第六三條然レトモ出資義務ハ之ニ反シテ會  
 社ニ對スル債務ナルヲ以テ會社ニ現存スル財產ヲ以テ辨濟スルニ足ラサルト  
 キハ直ニ之ヲ拂込マシムルナリ  
 會社財產ヲ以テ債務ヲ完済スルコトヲ得ヘキト雖モ清算人ハ現實ニ債務  
 ヲ辨濟シタル後ニ非サレハ會社財產ヲ社員ニ分配スルコトヲ得ス是レ債權者  
 ヲ保護スルタメニ止ムヘカラサル規定ナリ(第九五條此規定ニ反シテ爲シタル  
 分配ハ無効ナルヲ以テ第三者ハ清算人ニ其取戻ヲ請求スルコトヲ得ルナリ)

清算人カ現務ヲ結了シ債權ヲ取立テ債務ノ辨濟ヲ終リテ此ニ殘餘財產ノ分配  
 ト爲リ殘餘財產ノ分配ヲ終レハ清算人ノ任務ハ此ニ終了ス清算人ノ任務カ終  
 了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク計算ヲ爲シテ各社員ノ承認ヲ求ムヘシ社員  
 若シ一ヶ月内ニ此計算ニ對シテ異議ヲ述ヘサルトキハ之ヲ承認シタルモノト  
 看做ス然レトモ清算人ニ不正ノ行爲アリタルトキハ異議期間經過後ト雖モ社  
 員ハ之ニ異議ヲ述フルコトヲ得ルナリ(第九八條)  
 清算人ハ清算ノ結了シタルトキハ遲滞ナク本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ清算  
 結了ノ登記ヲ爲サ、ルヘカラス(第九九條)  
 四 清算ニ關シ社員ノ有スル權利義務  
 社員ハ會社ニ現存スル財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ辨濟スルコトヲ得サルトキハ  
 未拂込ノ出資ヲ拂込マサルヘカラス又會社財產カ債務ヲ辨濟シテ餘剩アルト  
 キハ其分配ヲ受クル權利ヲ有ス若シ又總社員共同シテ清算ヲ爲ス場合ニ於テ  
 ハ各社員ハ清算事務執行ノ權利ヲ有シ又義務ヲ負ヒ此他清算人ヲ選任シ又ハ  
 解任スル權利アリ計算ヲ承認スル權利アリ而シテ清算中社員カ死亡シタル場

合ニ於テハ此權利義務ハ其相續人之ヲ繼承スルナリ會社ノ解散前ニ在リテハ社員ハ死亡ニ因リテ退社スルト雖モ已ニ解散シタル後ハ清算事務アルノミナレハ社員ノ退社ナルモノナシ故ニ其權利義務ハ死亡者ノ相續人ニ於テ繼承セサルヘカラス而シテ相續人數人アル場合ニ在リテハ社員ノ權利ヲ行フ者一人ヲ定メシムルナリ(第一〇二條)

商人ハ第二十八條ノ規定ニ依リ十年間其商業帳簿及其營業ニ關スル信書ヲ保存スル義務アリ會社モ亦商人ナルヲ以テ此義務ヲ免ルヘカラサルハ勿論ナリ加之會社解散ノ場合ニ於テハ清算ニ關スル書類モ亦保存セサルヘカラス是ニ於テ此保存期間ノ起算點ト保存者トヲ定メタルヘカラス乃チ第一百一條ニ於テ之ヲ規定セリ第八十五條ニ依リ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ會社財産ノ處分方法ヲ定メタル場合ニ在リテハ此保存期間ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後十年間トシ其他ノ場合即チ清算手續ニ因ル場合ニ在リテハ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間トセリ又保存者ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ムルナリ

ナリ

第一欸 銀行ノ種類

業務ノ性質及ヒ目的ノ如何ニヨリテ銀行ヲ左ノ三種ニ區別ス

- (一) 農業銀行
- (二) 工業銀行
- (三) 商業銀行

第一項 農業銀行

第一目 農業銀行ノ起原及ヒ其沿革

國ノ東西ヲ問ハス時ノ古今ヲ論セス苟モ農業ニ從事スル者ハ其生活ヲ維持シ其事業ヲ繼續シ或ハ進テ業務ノ改良發達ヲ計ラント欲セハ時々其負債ヲ爲スノ必要ヲ生スルモノナリ土地未タ開ケス人口稀薄ナル邦ニ於テハ其耕作法未タ全ク整ハサルニ當リテ時々時候不順ニシテ收穫物非常ニ減少シ農民ハ其事業ヲ繼續スル能ハサルノミナラス目前ノ生活ニ差支ヲ生シ負債ヲ爲スノ必要ヲ生ス又國大ニ開ケ人口稠密ナル地方ニ於テハ穀物ノ需要増加シ其價格次第ニ騰貴スルヲ以テ在來ノ地積ト古來ノ耕作法ヲ以テ農業ヲ營ムコトヲ容サス耕作ニ不便ナリトシテ捨テ置キタル土地ヲ開キ又ハ既成ノ土地ニ改良ヲ加ヘ

器具機械ヲ改良シ肥料ヲ精進増加シテ總收穫ノ増加ヲ計ルノ必要ヲ生ス此時ニ當リテ多數ノ農民ハ自己所有ノ資本ノミニテハ不足ヲ感スヘク時ニ一旦自己所有ノ資本ノミニテ改良ヲ企テ半途ニ其資金盡キタル際ニ於テハ他人ノ資本ニ依ラサルヲ得サルモノナリ加之虫、風水、旱等ノ天災、戦亂、疫癘、獸疫等ノ厄難若シクハ火災一家ノ不幸、家計ノ不整理、土地買入代ノ不足等ノ結果ニヨリ借用金ヲ爲スノ必要ヲ生スルコトアリ而シテ此等ノ農民ニ對シテ資金ヲ貸與シ又ハ貸付ヲ媒介スル者ハ如何ナル者ナルヤトイフニ尙ホ土地ニ抵當銀行ノ設立セラレサル時ニ於テハ田舎ニ散在スル金貸又ハ市街地ニ在ル商業銀行ニシテ貸借ノ約束ハ短期全額一時拂長期年賦拂ニ對シテ云々ニシテ其利子歩合モ高キヲ常トス而シテ農民ヨリ債權者ニ與フル證書ハ普通ノ土地抵當借用證書ナリ此場合ニ金貸ハ通常自己所有ノ資本ニ依リテ營業スルモノナルカ故ニ農民ニ對シテ管ニ法律上債權者ノ地位ニ立ツノミナラス農民ニ貸付ケタル資金ノ實際ノ所有主ナリ之ニ反シテ商業銀行ハ他人ノ資金ヲ低歩ニ預リテ稍高歩ニ之ヲ貸付ケ其間ノ差額ヲ利スルヲ以テ本務ト爲スモノナルカ故ニ商業銀行ノ

貸付ケタル資金ノ出所ハ銀行ニ當座若クハ定期預金ヲ爲シタル人ニ在リト云フヲ得ヘシ

此等ノ人ヨリ借入ル、農民ノ被ル不利益ハ左ノ如シ

(一) 必要ナル時ニ必要ナル金額ヲ借用スル能ハス

(二) 高利ナリ

(三) 仕拂ノ方法及ヒ時期不適當ナリ

(一) 金貸ハ自己所有ノ資本ト親戚知友等ヨリ借入レタル小額ノ資本ニ依リテ營業スルモノナルカ故ニ其手裡ニ在ル資金ハ甚タ少キヲ常トス隨テ一時ニ巨額ノ借入請求ニ遇フトキハ之ニ應スルコト能ハス又市街地ノ商業銀行ハ農民ノ如ク期限ニ到リテ屢、延期ヲ乞フ者ニ對シテ多額ノ貸付ヲ爲スヲ好マス隨テ農民ハ價格甚タ多キ抵當物ヲ提供スルモ其借入請求ハ屢、拒絕セラレ、コトアリ隨テ農民ハ必要ノ際ニ必要次ノ金額ヲ借入ル、能ハス

(二) 金貸ハ自己所有ノ小額ナル資本ノ利子ノミヲ受クルモノナルカ故ニ銀行ノ如ク他人ノ資本ヲ運轉シテ利益ヲ收ムル者ニ比スレハ多少高歩ヲ得ルニア

ラサレハ其利得少キヲ以テ銀行ヨリ稍高歩ヲ求ムルハ當然ノコトナレトモ彼等ハ其近隣ニ競争者少ク稍獨占ノ地位ニ在ルヲ以テ之ヲ利用シ借主ノ窮迫セラル機會ニ乗テ極メテ高歩ナル利子ヲ求ムルコトアリ又市街地ニ在ル商業銀行ヨリ觀ルトキハ農民ハ屢仕拂ノ猶豫ヲ乞フ者ニシテ結局仕拂ヲ誤ルコトハ少キモ仕拂ノ期限ヲ守ラサルコト多シ此事タル商業銀行ノ業務ノ性質ニ反スルヲ以テ商人ニ對スル貸付例ヘハ手形ノ割引當坐貸越等ニ比スレハ農民ニ對スル土地抵當ノ貸付ハ危險多シト謂ハサルヲ得ス隨テ其危險ニ對スル保險料トシテ普通商人ニ對スル貸付利子ヨリ稍高歩ニ貸付ヲ爲スノ必要アリ加之農民ノ提供スル擔保タル不動産ハ銀行カ資金ヲ他ノ銀行ヨリ借入レントスルニ際シテ再擔保トシテ之ヲ利用スル能ハス又結局農民カ仕拂ヲ怠リタルトキニ之ヲ強制シテ取立ヲ爲ス場合ニハ商人ニ對スル貸付金ニ比シテ時日ハ費用ヲ要スルコト多キヲ以テ益高歩ノ利子ヲ求メサルヘカラス

(三) 右ノ債權者等カ短期金額一時拂ニアラサレハ貸出ヲ爲サ、ル理由ハ市街地ノ商業銀行ノ貸付タル資金ハ短期ノ後若クハ預金主ノ要求次第金額一時ニ

返済スヘキモノナリ隨テ己ニ對スル借主タル農民ヨリモ短期ニ金額一時拂ニ返済ヲ求メサルヲ得サルナリ又一個人タル金貸ハ長年月ニ涉リ元金ヲ分割シテ利子ト共ニ返済セラルルトキハ一團ノ資金ハ其年賦期限ノ終リニ至ラサレハ一ノ纏マリタル資本金トシテ利用スルノ機會ヲ失フノミナラス年賦金全體ヲ歲入ト混同シテ消費シ了リ終ニハ一ノ纏マリタル資本ヲ失フニ至ルノ恐アリ是レ年賦返済ヲ好マスシテ金額一時拂ヲ求ムル所以ナリ又一個人ハ其家計ノ都合ニ何時資金ヲ要スルコトアルヤモ計ラレサルヲ以テ餘リ長期ノ貸付ヲ爲スコトヲ好マサルナリ

以上ノ三利益ノ外ニ一個人ノ金貸中ニハ金ヲ貸スハ唯元利ノ返済ヲ欲スルニアラスシテ社交上ニ不當ノ利益ヲ得又ハ抵當物タル土地ノ獲得ヲ目的トスル等ノコトアリテ借主ヲシテ不測ノ損害ヲ被ラシムルコトアリ

又農民ニ貸付ヲ爲シタル市街地商業銀行者ノ感スル不便左ノ如シ

(一) 資金ノ回收不確實ナリ

(二) 資金融通ノ便ヲ失フ

(一) 農民ハ其性質朴直ナレハ惡意ヲ以テ仕拂期限ヲ誤ルモノニアラサレトモ彼等ノ歳入ハ毎年殆ト一定シ不時ノ利益ヲ得ルノ見込甚タ少キモノナルカ故ニ一旦不幸ニシテ其業務執行ニ必要ナル其所有資本ノ一部分ヲ失ヒ借入金ヲ以テ之ヲ補充シタルトキハ長年月ニ涉リテ毎年ノ出費ヲ節約シ漸次消却ノ方法ニ依ルニアラサレハ之ヲ完済シテ其必要資本ヲ全ク自己ノ有ト爲ス能ハサルナリ又他ヨリ資本ヲ借入レテ土地改良建物ノ建設器具機械ノ買入等ヲ爲シタル場合ニ於テハ長年月ニ涉リ從來ヨリ毎年多額ノ収益ヲ得ヘシト雖モ其一年間ニ於ケル収益ノ増加額ハ借入金一年間ノ利子ヲ超ユルコト甚タ多カラサルモノナレハ一年若クハ二三年ノ収益増額ノミヲ以テ借入金元利金全額ニ達セサルヲ常トス隨テ農民ハ短期全額一時拂ニ其借入金ヲ拂フコトハ營業ノ性質ニ伴ハサルコトニシテ不本意ナカラ期限ニ至リテ利子ノミヲ支拂ヒ屬延期ヲ乞ハサルヲ得サルナリ隨テ農民ニ貸付ケタル債權者ハ豫期通りニ其資金ヲ回收スルコトヲ得スシテ之カ爲メニ不測ノ損害ヲ被ルコトアリ

(二) 一個ノ農民ノ提供シタル抵當物ハ如何程價貴キ物ナルモ其農民ハ如何程正

直ナルハナリトスルモ其事柄ヲ熟知スル者ハ近隣ニ住居スル極メテ小數ノ人ニ止マリテ廣ク世人ノ認識ヲ得サルナリ隨テ債權者ハ臨時必要ノ場合アリテ期限内ニ資金ノ回收ヲ要スルコトアルモ其借用證書ヲ賣却シテ現金ヲ得ルコトハ頗ル困難ナルノミナラス其借用證書ヲ擔保トシテ差出シ他ヨリ一時資金ヲ融通スルコトモ亦殆ト爲シ能ハサルナリ隨テ一度農民ニ貸與ヘタル資金ハ債權者ニ取リテハ其貸付期限到來スルマテハ全ク活動ヲ失フモノナリト云フヲ得ヘシ此事タル市街地ノ商業銀行ニ取リテハ頗ル不利ナルコトニシテ一個人タル金貸ニ取リテモ亦多少不便ナルコトナリト謂ハサルヲ得ス又商業銀行カ其業務ノ性質ニ背キテ不動産ヲ抵當トシテ多額ノ資金ヲ農民ニ貸付クルコトハ頗ル危険ナルコトニシテ時トシテ一時ニ多額ノ預金取付ニ遭フトキハ之ニ應スルコト能ハスレシテ或ハ破産スルニ至ルコトナシト云フヘカラス

農業信用ノ組織以上ノ如ク不整頓ナルトキハ農民ハ不幸シテ一度負債ヲ起ストキハ其負擔ニ堪ヘスシテ彼等ノ據テ生活ノ基礎ト爲ス土地ニ離レ勤勉ナル



自作農ハ貧乏飽クナキ高利貸若クハ田舎ノ事情ヲ解セサル市街地ノ住民ノ小  
作人ト爲ルカ又ハ祖先墳墓ノ地ヲ去リテ浮浪ノ徒ト化シ去ルノ外ナシ此ノ如  
クナル時ハ唯農業ノ改良發達ヲ阻害スルノミナラス社會組織ノ基礎ヲ危クス  
ルモノニシテ實ニ農民ナル一階級ノ利害問題ニアラサルナリ是ニ於テカ國家  
ハ最早傍觀スヘキ時ニアラスト爲シ何レノ邦國モ自ラ機關ヲ設ケテ銀行業ヲ  
營ミ又ハ法令ヲ設ケテ信用機關ノ設立ヲ催シ嚴重ナル監督ト優渥ナル保護ヲ  
加ヘテ其業務ヲ助ケ農業信用ノ組織ヲ整理シ新ナル制度ヲ設ケ低利ニシテ且  
便利ナル金融ヲ與ヘテ高利負債ノ苦海ニ沈淪セル農民ヲ救ヒ尙ホ一步ヲ進メ  
テ其事業ノ改良發達ヲ助クルニ至レリ

此ノ新制度ノ萌芽ヲ發シタルハ普魯西國ニシテ有名ナル七年戰爭千七百五十  
六年六十二年ノ爲メニ國內一般ニ疲弊シ就中國王ニ直隸スル貴族ニシテ土地  
ヲ所有スルモノハ戰時ノ出費ト戰亂ノ爲メニ被リカル收益ノ減少トニヨリテ  
皆身分不相應ノ負債ヲ起シ其元利ノ仕拂ニ苦ミ國王ニ乞フテ不法ニモ三年間  
利子ヲ支拂ハサルヲ得ルノ命令ヲ出サシメ其三年ノ期限滿了ノ後モ再三其命

○編輯上ノ用向ハ必ス編輯部宛ニテ通信スヘシ

○質疑ハ半紙又ハ野紙ニ問題ト其疑點トヲ簡明ニ認ムヘシ

用紙ハ一問題毎ニ別紙ヲ用フヘシ  
半切葉書又ハ他ノ用事ト共ニ認メタル質疑ハ回答セス

亂筆讀ミ難キモノ趣意不明ナルモノ亦同シ

○落丁補充ノ請求ノ際ハ必ス其講義録ヲ返戻スヘシ

○編輯用ト會計用トハ必ス別封タルヘシ

葉書ノ場合モ之ニ準ス

明治三十二年十二月九日印刷  
明治三十二年十二月十日發行

編輯者 小田 幹治郎  
東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地

印刷者 金子 鐵五郎  
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金子 活版所  
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

發行所 司法省 和佛法律學校

所在 東京市麴町區(富士見)  
(町六丁目十六番地)

電話 (番町百七十四番)

明治廿二年十二月九日內 審許可